

天草方言の特徴

古語辞典に見られる天草方言

- 相方【あいかた】 相棒 相手
愛嬌【あいきょう】 愛敬 愛想 会釈
彼奴【あいつ あやつ】 三人称 あの奴 「あの人」の卑語
間中【あいなか】 中間
間の手【あいのて】 相槌 ②片手間 時たま
歩ぶ【あいぶ】 歩く
相惚れ【あいぼれ】 相愛
相身互い【あいみたがい】 お互い様
あいや【あいや】 否々それは違う ちょっと待った
阿吽【あうん】 相對の語
饗【あへ】 酒食の持て成し 宴 饗宴
喘ぐ【あおぐ】 息を切らす
仰のく【あおなく】 仰向く
明かうなる【あこうなる】 明るくなる
足掻く【あがく】 もがく
灯【あかし】 燈火 灯明 みあかし 「あかしつくる」
証【あかし】 証明 証拠
赤すかべい【あかんべー】 赤目 ②反目の仕種
赤恥【あかはぢ】 人前で大恥をかく
贖ふ【あがなう】 弁償する 償う
崇む【あがむる】 崇拜する 尊敬する
顎【あぎ】 あご 顔の下部
厭き倦む【あぐむ】 飽きる 持て余す
商ひ【あきにゃー あきねー】 商売
諦む【あきらむる】 諦める
呆る【あきるる】 呆れる
開く【あく】 開く
飽く【あく】 飽きる
灰汁【あく】 野菜から出る渋い液
悪業【あくごう】 報いを受ける様な悪事
悪性【あくしゃ】 迷惑 厄介 辟易する 「あくしゃうつ」
悪態【あくたう】 悪口雑言を言う
悪どし【あくどか】 あくどい 諍い しつこい
揚ぐ【あぐる】 揚げる 油に浸して煮る
挙ぐ【あぐる】 挙げる
胡座【あぐら】 足座 安座 「あぐらかく」

揚げ足【あげあし】 ことば尻を取る
挙げ句【あげく】 最終的に
明け暮らす【あけくらす】 月日を送る
論^{あげつら}ふ【あげつらう】 議論する 煽^{おだて}てる
明け六つ【あけむつ】 朝6時の鐘
上げ申す【あげもす】 差し上げる 供える
あけらかん【あつけらかん】 平然とした様子
顎^{あご}【あごた あごたん】 顔の下部
朝駆け【あさがけ】 早朝 早朝に事を済ます
嘲^{あざけ}る【あざくる】 あざ笑う 人を小馬鹿にする
朝東風【あさごち】 朝吹く東風
朝立ち【あさだち】 早朝家を出る ②勃起する
明後日^{あさつて}【あさつて】 明後日
朝腹^{あさつばら}【あさつばら あさつばち】 早朝 ②朝食前
字^{あざな}【あざな】 愛称 通称
糾^{あざな}う【あざなう】 縄を緲う 撚り合わせる
朝な夕な【あさなゆうな】 朝夕に 朝晩
浅はか【あさはか】 考えが浅い 浅薄 軽率 ②未熟
浅まし【あさましか】 卑劣だ 見苦しい 情けない
漁^{あさ}る【あさる あしえる】 魚貝を採る ②探す 掻き回す
あざれる【あざるる】 巫山戯る^{あざけ} ②飽きるほどに
嘲笑^{あざわら}ふ【あざわるう】 軽蔑笑い
欺^{あざむ}く【あざむく】 裏切る 見くびる だます
足掛け【あしかけ】 通算して 年月を跨がって 「あしかけ三年」
彼処^{あしこ}【あしこ あすこ】 あそこ ②陰部
足継ぎ【あしつぎ】 踏み台 梯子
あしらふ【あしらう】 待遇する ②取り合わせる
網代^{あじろ}【あじろ】 漁場
預^{あす}く【あすくる あつくる】 預ける
遊ぶ^{あせみず}【あすぶ】 好きなことをして楽しむ ②使用を止める
汗水^{あた・あだ}【あせみず】 汗滴 汗みどろ
徒^{あだ}【あだ】 悪戯する 邪魔する
仇敵賊^{あだがね}【あだ】 仇敵 敵^{きゅうてき かたき} ②仕返し 恨み
徒銀^{あだぐち}【あだぐち】 無駄金
徒口^{あだごと}【あだぐち】 無駄口
徒事^{あだ}【あだごと】 悪戯 邪魔
婀娜^{あだせに}白し【あだじろか】 妖艶な白さ なまめかしい白さ
徒銭【あだぜん】 無駄金
徒付く【あだちいて】 浮気心を起こして 浮ついて
渾名 徒名 仇名 綽名^{あだな} 【あだな】 愛称 通称

徒花【あだばな】 結実しない花 ②叶わぬ恋
彼方此方【あっちこっち】 あちらこちら 処々方々
扱ふ【あつかう】 物を使う
預く【あづくる】 預ける
借し【あつたらしか】 惜しい 勿体ない
集む【あつむる】 集める
誂ふ【あつらゆる】 誂える order ②注文する 依頼する
当つ【あつる】 当てる 割り当てる 言い当てる
当て【あて】 目的 見込み 頼み ②小楯 ③酒の肴
宛行ふ【あてがう】 割り当てる 与える ②添えて導く
宛行ひ【あてぎゃー】 割り前 仕事分担
宛行扶持【あてぎゃーぶち】 割り前 仕事分担
後絶ゆ【あとだえ】 後絶え 継承者が居なくなる
後腹【あとばら】 出産後の腹 ②一段落した後
強ち【あながち】 一概に
侮る【あなどる】 軽く見る 見下げる
荒ら屋【あばらや】 荒れ果てた家 ②自宅の謙称
暴る【あばるる】 乱暴する
浴ぶ【あぶる】 浴びる ②体に受ける 被る
泡【あわぶっく】 泡粒
浴す【あぶする】 浴びせる
仰のく【あおなく】 仰向く 上を向く
焙り籠【あぶりこ】 魚などを焼く金網
炙る 焙る【あぶる】 火にかざして軽く焼く
溢る【あふるる】 溢れる
和へ物【あいもん】 和え物
阿呆【あほ】 fool 馬鹿
雨打【あまうち】 雨落 雨内 軒下
甘皮【あまがわ】 木や果実の内側の薄い皮
雨乞【あまごい】 神仏に降雨を祈願する
剩へ【あまつさえ】 その上
遍し【あまねく】 広く一般に
肖る【あやかる】 優れた人に感化して似る
歩ぶ【あいぶ】 歩く
落ゆ【あゆる】 落果 ②落雷 ③降雨 ④汚れが落ちる
粗々【あらあら】 大雑把 ②殆ど
荒くまし【あらくましか】 荒っぽい
灼か【あらたか】 神仏の靈験が著しい
有らぬ【あらんこつ】 関係無いこと
有り処【ありか】 物の在る処

有り難し【ありがたか】 有り難い
有り切り【ありきり】 全部
歩く【あり一て】 歩く 「ありっさるく」
有り様【ありさま ありよう】 実際 ありのまま
彼【あれ】 奴 ②あそこにある物
会わす【あわする】 会わせる 面会させる
合わす【あわする】 合わせる 同調する ②混合する
慌つ【あわつる】 急く
安閑【あんかん】 安気で
安気【あんきか】 気楽 呑気 心配ない
あんぢょう【あんじょう】 首尾良く 具合良く
塩梅【あんびゃー】 塩加減 ②程合い ③体調
結ひ【いー】 結い ②労働力の相互扶助
言うともなし【いうともなか】 言いたくもない
言ふ舞ひ【いうみゃー】 言わないことにしよう
如何様【いかさま】 偽物 いんちき 誤魔化し
唾む【いがむ】 言い争う 罵る ②獣の威嚇発声
歪む【いがむ ゆがむ】 歪む ねじれる
厳し【いかめしか】 威厳がある
生き上がる【いきあがる】 生き返る 甦る
行き遭わす【いきあわせる】 遭遇する
行き掛け【いきがけ】 行く途中
行き過ぎ【いきすぎ】 通り越す ②度を超す
息急き【いきせっきって】 息を切らして
行き着く【いきつく】 目的地に到着する 到達する
行き詰まる【いきづまる】 解決法が無くなる
息詰む【うけづむ】 息む
生き恥【いきはぢ】 人生上の恥辱
行きやしょう【いきやっしゅい】 行きましょう
行きやる【いかる】 お行きになる 〔行く〕の敬語
息詰む【うけずむ】 息む 力む
井川【いごう】 湧水井 井戸
潔し【いさぎよか】 手早い ②思い切りがよい
石敲き【いしたたき】 鶴鴿
虐む【いじむる】 苛める
抱く【んだく】 抱擁する 抱える
病む【いたむ】 病気になる 傷つく
出づ【いづ づる】 出る 外へ行く 現れる
一家【いっけ】 親族
一向に【いっこうに】 一向に

一切【いっさい】 全て 残らす
一【いち】 一番 一等 最も 最高 「いっちよか」
一^{いっ}張^{ちよう}羅【いっちようら】 晴れ着
一^{いっ}時【いっとき いっどき】 ひととき 瞬時 ②同時に
否【いなにや】 否違う
今々【いまいま】 今し方
戒め【いましめ】 懲らしめ
去^いぬ 往^いぬ【いぬ いぬる】 行ってしまう
卑^いし【いやしか】 食い意地が汚い
苛^{いら}々【いらいら】 気が急ぐ
弄^{いら}ふ【いらう いじる】 弄る 弄ぶ 触る
入り目【いりめ】 経費 出費 費用
入る【いる】 入れる
炒^いる 煎^いる【いる】 炙り焦がす ②虐める
因果【いんぐわ】 原因と結果
魚【いを】 活魚
上無し【うえなし】 最上
浮^うき世 憂^うき世【うきよ】 この世 無常の世
受^うく【うくる】 受ける
胡^う散^{さん}臭^{くさ}い【うさんくさか】 怪しい
氏^う子【うじこ】 氏神を守る土地の人々
丑^う三^しつ^つ時【うしみつどき】 午前二時頃
後^うろ^ろめ^めた^たし【うしろめたか】 後ろめたい やましい
失^うす【うしつる】 捨てる 無くする
埋^うむ【うずむる】 埋める
微^う笑^すふ【うすわるう】 嘲り笑う
失^うせ^せろ【うしえろ】 立ち去れ 出ていけ 帰れ
抱^うく【んだく】 抱く
転^うた^た寝^ね 仮^あ寝^ぎ【うたたね】 仮眠
税^う 民^だ家の棟持柱 小屋根付きの袖壁
打^うち返^かす【うちかやす】 耕す ②繰り返す 病気が再発する
氏^う神【うじがみ】 生まれた土地の守り神
打^うち敷^しき【うちしき】 仏壇の敷物
内^う普^ふ請^{しん}【うちぶしん】 家の内部改装
打^うち撒^まき【うちまき】 神事でお祓いの散米
内^う股^ま膏^ご薬^{やく}【うちまたごうやく】 定見のない人 両天秤
鬱^う陶^{たう}し【うっとうしい】 陰鬱だ
俯^うす【うつぶする うつぶせる】 腹這う ②下向きになる
現^う々^{つら}【うつらうつら】 浅い眠り まどろみ
移^{うつ}り【うつり】 贈り物に対する返礼の品 お返し

移り香【うつりか】 移り香

空【うつろ】 空洞

疎い【うとか】 知識が乏しい ②疎遠

項【うなじ】 襟首

己【うな】 己 自分 ②相手を呼び捨てにする卑語

産土【うぶすな】 郷土の守護神 氏神 鎮守《日

郁【ウベ ウンベ】

甘し【うまか】 美味しい

生まる【うまるる】 生じる 誕生する

生れ在所【うまれざいしょ】 生誕地

海辺【うみべた】 海岸

埋る【うむる】 埋める

呻く【うめく】 苦しみで唸る

植ゆ【うゆる】 植える

末【うら】 梢

うらぶる【うらぶるる】 わびしい

恨めし【うらめしか】 恨みに思う

潤ひ【うりー】 慈雨

瓜実顔【うりざねがお】 色白で細面の顔

瓜坊【うりぼう】 猪の子ども

憂ふ 愁ふ【うれう】 嘆く

うろろう【うろろう】 疑わしい ②歩き回る

胡乱【うろんころん】 不審 怪しい ②彷徨する

蟒蛇【うわばみ】 大蛇

己 汝【うん】 [君は] の (卑語) 貴様 お前

永劫【えいごう】 極めて長い間

要なし【ようなし】 お役御免 役に立たない

依怙地【えこじー】 片意地

依怙最負【えこひいき】 片方だけを最負する

得知れぬ【えしれん】 至らない

えずい【えずい えずか】 怖い ひどい ②醜い

似非【えせ】 偽物

似非笑う【えせわるう】 嘲り笑う せせら笑う

肢【えだ】 四肢 手足 肩

肢骨【えだぼね】 手足の骨 肩の骨

得手【えて】 最も得意なこと

得手勝手【えてかって】 自分勝手 我が儘

胞衣【えな】 胎児を包む膜 胎盤

縁【えにし えん】 縁 縁 縁故

衣紋掛け【えもんかけ】 衣桁 ハンガー

偉い 豪い【えらか】 身分や地位が高い
生おほし上あぐ【おおしあぐる】 育て上げる 育成する
往わう生じやう【おうじょう】 死ぬ
横わう着たく【おうちやく】 横柄
横わう道どうか【おうどか】 横着で乱暴
仰をのかく【おうなく】 仰向く
可お笑かし【おかしか】 可笑しい 滑稽だ ②不味い
御お壁かべ【おかべ】 豆腐
燠お【おき】 炭火
燠おる【おきる】 着火する ②勃発する ③起動する
御お髪ぐし【おぐし】 頭髮 髪の毛
奥お手こわ【おくて】 遅咲き ②晩稲
強お飯こわ【おこわ】 赤飯
長を【おさ】 代表者
惜をし【おしか】 惜しい
お仕着せ【おしきせ】 奉公人に与える衣服
押し付く【おしつくる】 押し付ける
押し並べ【おしなべて】 総じて
教おゆ【おしゆる】 teaching 知識や技術を取得させる
遅おし【おそか】 遅い
御お陀だ仏ぶつ【おだぶつ】 死ぬこと
怖おづ【おずる】 怖じ気る
押し遣る【おっしゃる】 先に延ばす
追おっつけ【おっつけ】 やがて 間もなく
押おっとる【おっとる】 奪う 取り上げる
驚おかす【おどかす】 驚かす 相手をびっくりさせる
己おどれ【おどれ おどりゃ】 「お前」の卑語
驚おどろし【おどろしか】 恐ろしい 怖い
女お御なご【おなご】 女性
御お初はつ穂【おはつお】 神仏へ供える初物の収穫物
生おし上あぐ【おおしあぐる】 一人前に育て上げる
生おほす【おおす】 養育する 手を尽くして育てる
果おす【おおす】 果はたす 成し遂げる 「逃げ果す」
仰おす【おおせ】 仰る
おぼおつおかなし【おぼつかなか】 頼りない 気がかりだ
大お様やう【おようか】 おおらか 寛大 拘らない
覚おゆ【おぼゆる】 覚える
御お前まえ【おまえ】 神仏や貴人の前 ②仏間の前 ③あなた
大お御みおつけ【おみおつけ おつけ】 味噌汁
喚おく【おめく おらぶ】 大声で叫ぶ

おもね
阿る【おもねる】 追従する おべっかを使う

おもや
母屋【おもや】 本家

親里【おやざと】 実家

生ゆ【おゆる】 生える

御入りやる【おらる おりやる】 「居る」の上代敬語

折る【おるる】 折れる 曲げて切り離す ②気持ちを抑える

下る【おるる】 下りる ②金が支給される

降る【おるる】 乗り物から降りる

おろ【おろ】 不良 不都合

おろ覚え【おろおぼえ】 うろ覚え

おろよし【おろよか】 善くない 悪い 粗末 粗悪

おほ
御坐さぬ【おらっさん】 「居ない」の上代敬語

おほ
御坐す【おらす】 「居る」の上代敬語

お
生はる【おわる】 芽生える 生じる

開枕【かいちん】《梵語》 就寝時刻 午後九時

かか
鼻【かか かかあ】 「家内」の卑語

掛り湯【かかりゆ】 上がり湯

抱へる【かかゆる】 雇う 賄う ②妊娠する 庇護する

搔きたくる【かきたくる】 しきりに搔く

欠き餅【かきもち】 切り餅

欠く【かぐる】 欠ける

かく
囲ふ【かくう かこう】 匿かくまう 隠す 貯蔵 ②妾にする

かくま
匿ふ【かくまう】 隠匿する

掛け合ふ【かけあう】 折衝する

掛け樋【かけい】 水を引く樋どい

陰膳【かげぜん】 密かに安全祈願の霊膳を供える

掛け矢【かけや】 木槌

加減【かげん】 程度

かこ
水夫【かこ】 乗船員

かこ
屈む【かがむ かがむ】 屈む しゃがむ 腰を曲げる

かこつ
託く【かこつくる】 難癖つける

瘡【かさ】 腫瘍

風穴【かざあな】 風通し

かざし
挿頭【かざし かざし餅】 飾り餅 ②餡なしの餅

重ぬ【かさぬる】 重ねる

かし
炊き【かしき】 炊事

かこし
畏【かしこか】 恐れ多い 尊い

かす
潜く【かづく】 潜水する 水に潜る

かす
掠む【かすむる】 掠める 盗む 奪い取る

貸す【かする】 人に使わせる 力や知恵を与える

掠る【かす】 引っ掻く
数ふ【かぞゆる】 数える
瀉【がた】 干瀉 遠浅
担ぐ【かたぐる】 担う 背に負う
片一方【かたいっぽ】 一对の片方
傾く【かたぶく】 傾く ②衰退する
語る【かたる】 話す
傍ら【かたわら】 側 側近
傍ら痛し【かたわらいたし】 側にいて心苦し
徒【かち かちあるき】 徒歩 歩く
徒荷【かちに】 手荷物
且々【かつがつ】 片っ端 次々に
餓る【かつれる】 腹が減る
且且【かつがつ】 次々に
糍て【かっくう】 添えて食べる
糍て飯【かてめし】 野菜を混ぜた炊き込みご飯
がてり【がてりゃ】 序でに
合点【がてん がってん】 納得 同意 承諾
誘拐す【かどわかす】 誘拐する だます
叶ふ 適ふ【かなう】 思い通りになる
金縛り【かなしばり】 体の硬直
兼ね合ひ【かねあい】 釣り合い
予ねて【かねて】 予め 前もって
蕪【かぶ かぶら】 菘
傾く【かぶく】 傾く ②頭(穂)を垂れる
頭【かぶり】 頭 「頭振る」
被る【かぶる】 頭を覆う ②被害を蒙る ③責任を取る
構へ【かまえ】 家の構造物 門 垣
框【かまち】 建具の化粧枠
上座【かみざ】 上席 貴賓席
髪文字【かもじ】 (女御言葉) 髪 ②添え髪
絡繰り【からくり】 仕掛け 装置
屍櫃 空櫃【からと】 神を祀る石の祠
乾ぶ【からぶる】 乾く 乾燥する ②種痘が乾く
かり上ぐ【かりあぐる】 絡げ上げる
枯る【かるる】 枯れる
かるふ【かるう】 背負う ②負担する
皮切り【かわきり】 最初のお灸 ②行事の最初
河童【がわっぱ】 河童
厠【かわや】 雪隠 便所

かはらけ

土器【かわらけ】 素焼きの土 ②無毛の性器

寒晒し【かんざらし】 寒気に晒す

堪忍【かんね かんねん】 勘弁 御免

葱【ともじ】 ※(一文字) 葱ねぎ 小葱 分葱

帰依【きえ】《梵語》 神仏を信仰する

聞かす【きかす】(上代敬語) 聞かれる お聞きになる

聞き合はす【ききあわする】 色々聞いて考え合わせる

聞き繕ふ【ききつくろう】 よく聞いて検討する

利ける【きくる】 効能がある

聞こゆ【きこゆる】 聞こえる

気根【きこん】 根性が座っている

気散じ【きさんか】 構わない ②呑気

気色【きしよく】 気分 顔色

軋む【きしる】 擦れ合う こする

着す【きする】 着せる

鍛ふ【きたう】 鍛える

汚し【きたなか】 汚い 不潔

北枕【きたまくら】 枕を北にして寝る

きつい【きつか】 苦痛 つらい

切っ端【きっぱし】 先端

来と来【きとく】 来を重ねて強調する 来て待っている

木戸口【きどぐち】 入口の扉

黄ばむ【きいばむ】 黄色を帯びる

気骨【きぼね】 気苦労 心配

気の毒【きのどっか】 気の毒だ

肝煎り【きもいり】 仲介 世話

肝煎る【きもいる】 仲介する 世話する

肝潰す【きもつぶす】 仰天する 驚く

脚達【きやたつ】 踏み台 足継ぎ

脚絆【きやはん】 脛に巻く布

消ゆ【きゆる】 消える

仰山【ぎょうさん】 たくさん 多く

行水【ぎょうずい】 水で体を清める

仰らし【ぎょうらしか】 仰々しい

局る【きよくる】 冷やかす

切らず【きらず】 雪花菜 卵の花 豆腐のかす

限々【ぎりぎり】 極限

切り盤【きりばん】 俎まないた 俎板

愚らし 暗し【ぐうらしか】 哀れだ 可哀相だ

潜る【こぐる】 物の下を抜けて通る ②もぐる

くける【くける】 縫い目を隠し縫いする
臭し【くさか】 臭い ②疑わしい
くさる【くさる】 果物が鈴生りしている
くさる【くさる】 連なる ②鈴生りになる
くじる【くじる】 抉る 穿る
くすぶり【くすぶり】 燻り 煤け
くすぼる【くすぼる】 燻る 燃えないで煙る
くすぬる【くすぬる】 猫婆する
崩る【くずるる】 物が壊れる
くせもの【くせもん】 怪しい者
くたくた【くたくた】 元気がなくなる
くだす【くだす】 下痢する 決定する
くたびれ【くたぶれ】 疲れ
くちおしか【くちおしか】 口惜しい
くちぎたなか【くちぎたなか】 言葉が下品 ②食い意地が張る
くちぎり【くちぎり】 食事制限 食断ち
くちたたく【くちたたく】 饒舌
くちなわ【くちなわ】 朽ち縄 蛇
くしゃみ【くしゃみ】 くしゃみ
くど【くど】 竈 料理の煮炊きするところ
くねる【くねる】 体を捻じる
くびる【くびる】 括る 結ぶ 結わえる
くぼむ【くぼむ】 become hollow 凹む
くまなし【くまなし】 抜かりなく
くめん【くめん】 工夫 device 遣り繰り
くもつ【くもつ】 神仏の供え物
くやく【くやく】 奉仕作業 公課作業 課役
くやし【くやし】 口惜しい
くゆる【くゆる】 崩壊する 朽ちる ②腐れる
くろう【くろう】 飲食する ②身に受ける
くらがり【くらがり】 暗いところ
くらすみ【くらすみ】 暗がり 暗いところ
くらはす【くらはす】 くらわす くら一する 殴る 打つ 叩く
くり【くり】 《梵語》 寺院の台所
くりや【くりや】 台所 厨房
くるとる【くるとる】 呉れる 与える 差し上げる
くるとる【くるとる】 暮れる
くれ【くれ】 原木 丸太
くれむつ【くれむつ】 《梵語》 暮れの六時に打つ寺の鐘
くわいせき【くわいせき】 会席料理の略

懐中【くわいちゆう】 懐中 懐

菓子【くわし】 お菓子

火事【かじ くわじ】 火事

加はり【くわわる】 共同作業 労働交換^{くわぶん}過分【かぶん くわぶん】 程度を超える 必要以上

加ふ【くわわる】 加担する 参加する 仲間に入る

果報【かほう くわほう】 因果応報 善い報い

勧進【かんじん くわんじん】 托鉢修行の僧侶 ②乞食

罐子【かんす くわんす】 お湯を沸かす器具

袈裟懸け【けさがけ】 斜めに紐を掛ける

下作【げさっか】 品格が劣っている

怪しからぬ【けしからん】 不届きだ 許せない

褒 褒稻【けしね】 自家用穀物 「けしねぼり」

下種 下衆【げす】 卑しい者 身分が低い者

解せぬ【げせん】 理解できない 納得できない

卦体【けったい】 風変わり 奇妙

けつかる【けつかる】 [ある 居る] の卑語

外道【げどう】 卑しい奴

今日【きゆう】 本日

煙たし【けぶたか】 煙たい

煙【けぶり】 煙

げな【げな】 …らしい

気に叶わぬ【げにかなわん】 力量不足

験【げん】 霊験 効験 「験担ぎ」

現当【けんとう】 縁起

げんなり【げんなり】 気力がなくなる

業【ごう】 前世の報いをこの世で受ける

巧者【こうしゃか】 利口者だ 賢い 気が利いている

講 釈【こうしゃく】 教義の意味を解く ②屁理屈

口銭 貢銭【こうせん】 手数料 仲介料

公道【こうとか】 地味 質素 ②身持ちがよい

寄生虫【ごうな】 郷なし 宿借り ヤドカリ

香ばしい【こうばしか】 香りがよい

こかす【こかす】 倒す ②落とす ③だます

焦がる【こがるる】 焦げる

御器【ごき】 木椀 食器

小切る【こぎる】 魚を料理する ②値切る

御供【ごつくさま】 神仏への供え物 佛飯

扱ぐ【こがす】 根から掘り起こす 根扱ぐ

穀断ち【こくだち】 穀類を食べないで願を掛ける

柿【こけら】 きくず 木屑 こけら板の略 →こけら落し
転ける【こくる】 転倒する 落ちる
子子し【ここしか】 おっとりして優しい
小言【こごと】 不平 苦情
心安し【ここりやすか】 心安い
小賢し【こさかしか】 油断ならない
刮ぐ【こさぐ】 削りそぐ 削ぎ取る
御座あり【ござりやす ござす ござっす】 ございます
古参【こさん】 古くから仕えている人
輿入れ【こしいれ】 嫁の輿を入れる 嫁入り
甑【こしき】 古式の蒸し器 蒸籠 酒仕込樽
腰巾着【こしぎんちやく】 上役に従属する人
小癩【こしゃく】 生意気
後生大事【ごしょうだいじ】 物を大切に
拵へる【こしらゆる】 調理する ②支度する
御仁【ごじん】 お人 お方
狡し【こすか】 悪賢い
御前【ごぜんさま】 貴人の敬称
搦る【こちよぐる】 搦る
こそばゆし【こそばいか こちよわいか】 くすぐったい
挙る【こぞる】 揃って
堪ふ【こたう】 耐える 我慢する
御託宣【ごたく】 勿体ぶる くどい
如し【ごたる】 如くある
東風【こち】 東から吹く風
五体【ごちや ごてえ】 胴体両手両足 ②背中
御馳走【ごっつお】《梵語》 振舞い もてなし
ごつい【ごつか】 無骨でヤボ 頑固
小作り【こづくり】 小柄
特負【こって牛】 牡牛 役牛
事欠く【ことかく】 不自由する
事欠かぬ【ことかかん】 充足する 間に合う
五徳【ごとく】 鉄瓶を乗せる三脚の鉄輪
事毎【ごとごと】 たびたび 事あるたび
事足る【ことたる】 満足する
託く【ことつくる】 托品 ②伝言
託け 言付け【ことつけ】 言伝 伝言
事難し【ことむつかしか】 事態が面倒
熟す【こなす】 熟成する ②処理する 消化する
粉糠【こぬか こんか】 米の糠

媚ぶ【こびる】 媚びる
零る【こぼるる】 零れる
細か【こまんか】 細かい 些事 小さい
細事【こまごつ】 取るに足りないこと
こむらがえり【こむらがえり】 ふくらはぎの麻痺
芥【ごもく】 塵埃
此奴【こやつ】 此の奴 [この人] の卑語
肥ゆ【こゆる】 体が肥満になる ②良さが分かる
越ゆ【こゆる】 通り過ぎる
来らすまい【こらすみゃ】 [来ないだろう] の敬語
これはこれは【これはこれは】 これはありがとう
頃合【ころあい】 適当な時期 潮時
強飯【こわい】 米や糯を蒸したご飯
声高【こわだか】 大きな声 大声
強張る【こわばる】 硬直する 固まる
献【こん】 酒杯や魚を数える単位
根性腐り【こんじょんくさつとる】《梵語》 性根が悪い
此方【こんた】 この人
細工【さいく】 仕事 ②仕業
賽の河原【さいのかわら】 三途の川原 無駄骨
盛し【さかし】 盛しい 元気だ 壮健 達者
驚足【さがし】 下げ足 竹馬
賢し【さかしか】 小賢しい
険し【さがしか】 険しい
さかとんぶり【さかとんぼ】 逆立ち 倒立
逆振【さかねじ】 逆襲する やりこめる
先走り【さきばしり】 でしゃばり ②主人の前を走る使用人
下ぐ【さぐる】 下げる
作病【さくびょう】 仮病
雑魚寝【ざこね】 男女が入り交じって寝る
ささほうさ【ささふうさ】 ごったがえし
ささめく【そそめく】 小声で話す 囁く ひそひそ話す
ざざめく【ざざめく】 がやがや騒ぐ ざわざわ どよめく
觔【しゃーら】 竹束子 ②尖ったもの 刺
差当り【さしあたり】 当面 とりあえず
差し担ひ【さしいにゃー】 二人担い
差し掛く【さしかくる】 上からかざす
差詰め【さしづめ】 結局
差し詰まる【さしつまる】 切迫する
さしでがまし【さしでがましか】 お節介

差し出口【さしでぐち】 余計な口出し
差し合い【さしや一】 支障 差支え
差し遣る【さしやる しゃっしやる】 差し出す
雑つと【ざつと】 雑に 大雑把に
早苗饗【さなぼり】 田植え後の宴
共寝【さね】 同衾 男女が共寝する
核・実【さね たね】 果実の実 ②壁下地 ③陰核
捌くる【さばくる】 捌ける 能率が上がる ②敏腕 ③完売
多々【そうそう】 頻繁ではない 再三
多にや【そうにや】 たくさんに かなり
鯖読み【さばよむ】 数をごまかす
狭間【さま】 外を見る小窓
然も【さも】 如何にも
さもあらばあれ【さもあれ】 ともかく それにしても
さもしい【さもしか】 意地汚い ②見苦しい ③卑劣だ
座元【ざもと】 行事の主催者
新【さら】 新品 ②処女
木把【さらえ】 土や沼を掻き取る農具
新湯【さらゆ】 一番風呂
去る来【さるく】 歩き回る 彷徨する 散歩する
然り気無し【さりげなく】 何気なく 平然と
され【されば】 だから であるから
戯言【ざれごつ】 冗談
騒々【さわさわ】 取り込み中 ごった返し
障り【さわり】 支障
散々【さんざん】 はなはだしい 酷い
算用【さんによう】 計算 勘定
舳板【さんばん】 舳 岸と本船を結ぶ小型の渡し舟
為得ぬ【しいえん】 出来ない
仕入れる【しいるる】 買入れる 仕込む
潮合ひ【しおあい】 潮時 程合い
仕置【しおき】 お仕置 成敗
潮垂る【しょたるる】 潮解する ②活気がない
塩鹹し【しおはいか】 塩っぱい 塩辛い
萎らし【しおらしか】 健気だ 控え目
萎る【しなぶる】 生気がなく萎む
確と【しかと】 確かに
止観花【しかんばな】 葬儀で霊前に供える造花
直【じき】 直ぐに 即刻
頻り【しきり】 頻りに 頻繁に

仕切る【しきる】 区画する 仕事を切り回す
地下【じげ】 在所 地元 「地下ン者」
しき【しこ】…程 …だけ …ばかり 「ぎゃしこ」
醜名【しこな】 仇名 力士の呼び名
為熟す【しこなす】 処理する 仕事を仕上げる
仕込む【しこむ】 容器に材料を入れる ②躰ける 訓練する
雫【しづく】 滴 水の滴り
したことが【したことが】 …ともあろう者が
仕出す【しだす】 し始める ②する時間がある
したたか【したたか】 ひどく 強く 甚だしく
濇む 漉む【したむる すたむる】 水滴を切る
七面倒【しちめんどうか】 面倒くさい 煩わしい
竹筥【しっぺ すっぺ】 禅家の修行に使う竹製の杖 ②爪弾き
卓袱【しっぽく】 中国式食卓 ②卓袱料理
為出かす【しでかす】 してしまう やってのける
糰【しとぎ】 神前へ供える糯米の団子
為成す【しなっす】 なさる ②作るあげる
撓垂る【しなだるる】 撓垂れる
撓ぶ【しなる】 撓む
為習ふ【しならう】 仕方を習う
死に金【しにがね】 無駄金
自然蓆【じねんじょ】 山芋
忍ぶ【しのぶる】 包み隠す 始末する 片づける
忍べ【しのべろ】 包み隠せ 片付けろ
しはぶる【しわぶる】 舐めて吸い取る
時分【じぶん】 時間帯 頃 時期
虐ぐ【しへたぐる】 責める いじめる
仕舞ふ【しまう】 終える ②収納する ③食事する
始末【しまつ】 片付ける 処理 儉約する
染みつく【しみつく】 深く染み込む ②忘れ難い
湿し【しめし】 おむつ おしめ
借錢【しゃくしえん】 借金
じゃじゃばる【じゃじゃばる】 我を通す
洒落る【しゃるる】 wit 気の利いたことを言う ②めかす
宗旨【しゅうし】 sect 宗派 宗門
入水【じゅすい】 入水自殺
雫【しづく】 滴 水のしたたり
萎む【しぼむ】 水分を失い萎む 干涸びる
術無し【じゅつなかり】 心苦しい やりきれない
戯ける【じょうくる ぞうくる】 戯れる ふざける

正月【しょうぐわつ】 正月
上戸【じょうご】 酒豪
笑止【しょうし】 気の毒 ②滑稽
上手【じょうず】 巧み 達人
祥月命日【しょうつき】 一周忌以後の命日 正忌
性根【しょうね】 根性 心根
相伴【しょうばん】 接待 接客 ②お節介
仕様模様【しょうもようなか】 どうしようもない
諸式【しよしき】 諸物価 ②諸物品
所詮【しよせん】 結局 つまり
塩垂れ【しよたるる】 潮解する ②活気がない
初手【しよて】 最初
嫉む【しよのむ】 妬む 嫉妬する
染む【しよむ】 色や匂いが移る
所望す【しよもうさす】 要求する 求める 望む
撓垂る【しなだるる】 締まりがなくだらけている
白和へ【しらあえ】 豆腐を入れた味噌和え
白かす【しらかす】 白けさせる 興ざめさせる
痴れ痴れし【しらじらしか】 白々しい 馬鹿の振りをする
白化ける【しらばくるる】 白を切る 知らぬ振りする
白面・素面【しらふ】 素面 酒に酔っていない状態
痴れ笑ひ【しらわりゃー しらわれー】 白笑い 嘲笑
尻 臀【しりべた】 臀部
仕業【しわざ】 為業 行為 所業 したこと
しはぶる【しわぶる】 舐めて吸い取る
身上【しんしょう】 暮し 財産
進ぜ申す【しんぜもす】 進呈する 差し上げる
辛 勞【しんどか】 精神疲労 疲れる
神変【じんべんか】 不思議な神の力 ②殊勝だ 奇特だ
酔狂【すいきょう】 酔狂する
須恵器【すえき すやき】 素焼き 釉薬を掛けない陶器
据え膳【すえぜん】 食膳を整える 食事を接待する
透かす【すかす】 まばらにする ②放屁する
賺す【すかす】 なだめ賺す 機嫌とる
蟻【すがね】 蟻
竦る【すくばる】 竦む 硬直する
選る【すぐる】 選び出す 選り抜く
すこたん【すこたん】 馬鹿 見当違い
頗る【すこぶる】 随分 かなり
退る【すだる】 後退 退く 下がる

寸莎藁【すさわら】 壁土に混ぜる藁
素性【すじょう】 素質 性格 血筋 育ち
煤く【すすくる】 煤ける 煤に染みる
濯ぐ【すすぐ】 水で洗い清める
吸る【すする】 液体を吸い込む 鼻汁を吸い込む
磨る【すたる】 無駄になる
ずつ【ずつ】 等分量に分ける
窄める【すぼむる】 狭める 縮める
住み着いた【すみちいた】 定住した 永く棲む
すめく【すめく】 呻く 呻き声を漏らす
素戻り【すもどり】 何の用事も果さず帰る
寸胴【ずんどう】 胴体にくびれがない
すんなら【そんなら】 それでは ではまた
ずんぶり【ずんぶり】 どっぷり びっしょり浸る
所為【せい】 原因 もと
せうことなし【しょうことなし】 仕方なく 止むを得ず
せがむ【せがむ】 せびる 無理にねだる
塞き詰む【せきつむる】 塞詰める 閉じこめる
背切り【せぎり せこぎり】 骨ごと刺身する
急く【せく】 急ぐ
塞く【せく】 止める 閉じる ②激痛
嘲笑ふ【せせらわるう】 嘲り笑う 冷笑
折檻【せっかん】 厳しく責める 厳しく叱る《京》
節季【せっき】 歳末 年の暮れ
説経【せっきょう】 教義の説法 ②訓戒 教訓
殺生【せっしょう】 生き物を殺す
接待【せってや一】 施し 持て成し
雪隠【せっちん】 便所 厠
責付く【せつつく】 責め立てる ②催促する
切なし【せつなか】 窮屈だ ②辛苦
切羽詰まる【せっぱつまる】 抜き差しならぬ
背戸家【せとや せどや】 裏の家
せびらかす【せぶらかす】 からかう ひやかす
競り合う【せりあう】 競い合う
狭し【せばか】 狭い
忙し【せわしか】 忙しい 余裕がない
せびらかす【せぶらかす】 からかう 冷やかす《京》
せびる【せびる】 責め取る せがむ ねだる
狭し【せばか】 狭い
闊ぐ【せめく】 恨む ②責め立てる

銭【ぜん】 お金 貨幣

せよ【せろ】 しなさい

忙し【せわしか】 忙しい

銭【ぜん】 お金 貨幣

疝気【せんき】 漢方 腸や腰の病 尿管閉塞症

先繰【せんぐり】 順番に 次第に

善哉【ぜんざい】 善哉餅の略《京》

詮索【せんさく】 細かい事を捜し出して調べる

族【ぞう】 族の音便 一族 「天草族」

筥 箆筒【しょうげ】 竹製の筥

総じて【そうじて】 概して 大概

総領【そうりょう】 跡取り 嫡子 長男

其処其処【そこそこ】 中途半端 いい加減

損ふ 害ふ【そこなう】 壊す し損じる

底無し【そこなし】 際限なし ②大酒のみ

傍り【そしり】 誹謗 非難 悪く言う

傍る【そしる】 非難する 悪く言う くさす けなす

損ず【そずる】 損なう 悪くする 傷む

濯ぐ【そそぐ】 wash 濯ぐ 洗い流す

そそくる【そそくる】 弄ぶ ②修繕 修理する

そそかし【そそっかしか】 挙動が慌ただしい

そつ【そつ】 手抜き 手落ち 無駄

袖にす【そでーする】 粗末にする ②いい加減にする

袖乞ひ【そでごい】 物貰い ②乞食

備へ【そなえ】 用意 準備

そ引く【そびく】 無理に引っ張る

聳ゆ【そびゆる】 聳える 高く立つ

素振り【そぶり】 air 挙動 動作

背く【そむく】 反対する 従わない

染む【そむる】 染める 色づく 馴染む

騒ぐ【そめく】 騒ぐ

作麼生【そもさん】 さあどうだ 如何に（仏教語）

抑も【そもそも】 さて 元々 元来

其奴【すやつ そやつ】 其の奴 [その人] の（卑語）

嫉む【しよねむ しよのむ】 嫉妬する 妬む 羨む

空言 空虚【そらごつ】 虚言 嘘 偽り言

諳んず【そらんずる】 暗記している 暗唱する

某【それがし】 誰其れ 何がし ②私

ぞんざい【ぞんざい】 無礼 粗末 いい加減

其の定【そんじよそこら】 その周辺

大往生【だいおうじょう】 見事な死に際きわ
大儀【たいぎ】 重大な儀式 ②ご苦労
対々【たいたい】 対等で
松明【たいまつ】 松脂を炊いて照明にしたもの
逮夜【たいや】 命日の前夜
手植え 田植え【たうえ】 稲苗を植え付ける
手折る【たおる】 手で折る ②手込めにする
撓む【たおる】 弓状に曲がる
箍【たが】 桶の輪
違ふ【たがう】 違う ②約束を破る ③関節がずれる
高枕【たかまくら】 安眠 熟睡する
集る【たかる】 虫などが群れる
滾る【たぎる】 煮え立つ 沸騰する
貯う【たくう たくわゆる】 貯蔵する
手繰る【たぐる】 手元へ引き寄せる 「たぐりよする」
酎【たけなわ】 真っ最中
哮る【たける】 うめく 唸る 声を出して苦しむ
担桶【たご】 担い桶 「肥え担桶」
確か【たしきや】 確実に 間違いなく
足し無し【たじなな】 物が不足する 乏しい
嗜む【たしなむ】 好んでする ②慎む
他所【たしよ】 余所 別の所
徒事【ただごと】 普通でないこと 尋常でないこと
祟り【たたり】 呪い 悪事の報い 災い
立ち竦む【たちすくむ】 立ったまま動けない
立ち所に【たちどころに】 直ちに その場で
立ちはだかる【たちはたがる】 手足を広げて立つ
たぢろく【たじろぐ】 ひるむ 尻込みする
駄賃【だちん】 労働報酬 「だちんとっどん」 労務者
達者【たっしゃか】 壮健 元気
手綱【たづな】 馬の轡くつわにつけて馬を操る綱
伊達【だて】 派手 粋 お洒落
楯突く【たてつく】 逆らう 反抗する
畳紙【たとうし】 着物を入れる厚手の和紙
辿る【たどる】 探り求める 尋ねて探す
棚引く【たなびく】 雲や霞が長く連なる
谷臺【たながく】 蝦蟇ガマ 殿様蛙
束ね【たばぬる】 取り仕切る まとめる
誑かす【たぶらかす】 騙す 欺く 誤魔化す
魂消る【たまがる】 驚く びっくりする

手向く【たむける】 神仏に物を供える 餞別をやる
賜る【たもる】 賜る 頂く
蛇羅【だら】 阿保陀羅經の略 乞食の俗語 ②バカ ③人糞尿
盥【たりやー たれー】 盥
足り臭し【たりくさか】 足りそうにない
怠し【だるか】 体がだるい 疲れる
垂氷【たらし】 氷柱
戯く【たわくる】 戯れる 戯ける
戯言【たわごつ】 ふざけたことば
撓み【たわみ】 折れ曲がり
旦那【だんな】 親方 亭主
茅 白茅【ちがや】 萱
杠秤【ちきり】 竿秤 天秤式計量器
畜生【ちくしょう】 罵ることば ②自戒のことば
乳繰る【ちちくる】 弄ぶ ②男女が戯れ合う
茅の輪【ちのわ】 茅 夏越し祭りのお祓い
茶出し【ちゃだし】 急須
ちゃちゃくる【ちゃちゃくる】 男女がじゃれ合う
茶瓶【ちゃびん】 土瓶 ②禿頭
ちゃめく【ちゃめく】 ふざける おどける
ちゃらふく【ちゃらふく】 出鱈目を言う
重畳【ちょうじょう】 有難う
ちよがらかす【ちよこらかす】 嘲 奔 冷やかす からかう
猪口才【ちよこざい】 小癩な 生意気
ちよっこり【ちよっこらーと】 こぢんまりと
ちよびっと【ちびっと】 僅か ほんの少量
ちよろまかす【ちよろまかす】 誤魔化す
序【ついでに】 幸便
使ひ 遣ひ【つきやー】 小遣い
番【つがい】 蝶番 繋ぎ目 関節 ②動物の雌雄
つがなし【つかんこと】 訳もない 他愛ない
蹲・蹲踞【つくばい】 茶道の手水鉢
蹲う【つくばう】 うずくまる しゃがむ 腹這う
つぐら【つぐら】 藁で丸く編んだ保温用の飯櫃
つぐら【つぐらまく】 蛇がどくろ巻く
繕ふ【つくろう】 修理する 乱れを直す
付け届け【つけとどけ】 御進物
晦【つごもり】 月籠りの略 三十日
辻【つじ】 四辻 四つ角 交差路
辻弊【つじべえ】 十字路に立てる魔除けの御弊

つぶ
円ら【つぶら】 粒 ②形状 太さ
つだ
頭蛇袋《梵語》【づだぶくろ】 修行僧が持つ袋
土圀う【つちかう】 土を寄せる
土塊【つちくれ】 土の塊
づつ【づつ】 等分量に分ける
術無し【づつなな】 切ない 苦しい
つづ
約まる【つづまる】 縮まる 短くなる
綴る【つづる】 繋ぎ合わせる ②書く
綴れ【つづれ】 破れを繕った着物
つて
伝【つて】 手づる 縁故 頼り
つと
苞【つと】 藁苞 ②脹ら脛 はぎ
つばき
唾【つば】 唾液 消化液
つばくらめ・つばくら
燕 【つばくらめ】 燕 つばめ
つばな
芽花【つばな】 茅の花 ちかや
つひ
費え【つうえか】 費用 支出 ②無駄
つぶら
円【つぶら】 丸くふくよか
潰る【つぶるる】 押し壊す ②駄目になる 倒産
つべらこべら【つべこべ】 あれこれ小言を言う
つぼね
【局】 隠居所 離れ屋 分家
つま
端【つま】 縁 際 縁際 「座敷ンつま」
つめはん
爪判【つまいん】 拇印
爪弾く【つまびく】 爪で弾く
詰む【つむる】 満杯に入れる 縮める
つ
抓む【つめくじる】 抓る 爪で摘んでねじる
積【つもり つもる】 心算 計画
露と【つゆと】 ある程度 ②あまり
つる
蔓【つら】 蔓草 つるくさ
つらつら
連連【つらら】 氷柱 垂氷 つらら たるひ
つるべ
釣瓶【つるべ】 深井戸用水汲み桶
つるむ【つるむ】 交接する
連れ【つれ】 関連 ②種類 「こんつれ」
連れ立つ【つんなむ】 伴う 一緒に行く
つれづれ
徒然【づれづれ】 することもなく退屈
てうず
手水【ちょうず】 洗面所 便所
手負ひ【ておい】 負傷した獲物
でかす【でかした】 よつくやった
めかけ
手掛【てかけ】 妾 第二夫人
出来合ひ【できや一】 既製品
でけもの【できもん でけもん】 腫瘍 しゅよう
でく
木偶【でく てっく】 木人形 ②不器用者

手薬練【てぐすねひく】 用意万端整える 満を持す
出来た【でけた】 できた
手為【てし】 手製 手作り
手塩皿【てしおざら】 小皿
手遊び【てずさみ】 手慰み
手代【てだい】 使用人 ②下級役人
出発ち【でたち】 旅立ち 死者を送る別れの食事 出棺の膳
出違ふ【でちがい】 入れ違いになる
出交す【でっくわす】 思い掛けなく出会う
丁稚【でっち】 小僧 雑役の小僧 男児
鉄瓶【てつびん】 鉄製の湯沸し器
でっぷり【でっぷり】 肥っている
天辺【てっぺん】 頂上
父親【てておや】 男親
手転業【ててんご てまんご】 手ずさび 手なぐさみ
出鼻【ではな】 旬 出っ端 出初め
でばなくじく【でばなくじく】 最初からけちがつく
手拭い【てぬぐい てんげ】 タオル
手誉め【てぼめ】 自画自賛 自慢
出れぬ【でれん】 出られない
出ぬ【でん】 出ない
伝供【でんぐ】 神仏へ手渡しで供物を供える
伝供取り【てんぐどり】 手渡しで物を運ぶ
天眼通【てんげんつう】 天眼で見透かす力
手手に【てんで】 それぞれ 銘銘
天道【てんとうさま】 天の神 天日 太陽
転婆【てんば】 お転婆 陽気で活発な娘
同行衆【どうぎょうしゅう】 信仰仲間 門徒
当座【とうざ】 当分の間 差当たり ②その場
東司【とうす】《梵語》 禅寺の便所
とうと【とうと】 遂に 結局 最終的に
頭人【とうにん】 祭礼行事の世話役 幹事
どうやら【どうやら】 どうにか なんとなく
科【とが】 過失 過ち 罪
どかす【どかす】 退ける 場所を移す
咎む【とがむる】 咎める 責める 非難する
とく【とく】 退く 場所を移す
得心【とくしん】 納得
同志【とし】 同志 友達 友人
徒燃【とぜん とぜんなか】 退屈 ②寂しい 心細い

跡絶ゆ【とだゆる】 跡絶える

とちめく【とちめく】 狼狽する 慌て騒ぐ 慌てふためく

届く【とづく】 届く 達する

ど突く【どづく】 殴る 懲らしめる

滞る【とどころる】 停滞する 渋滞

跳び上がり【とびあがり】 突飛でそそっかしい人

点す【とぼす】 点す 点灯する

弔ひ【とむりゃー】 弔い 死者の霊を慰める

どまぐれる【どまぐるる】 まごつく ②捨鉢になる

どもかうも【どもこも どんこん】 どうにもこうにも

鳥屋 埒【とや】 鳥小屋 鶏小屋

土用干し【どようぼし】 虫干し

動めく【どよめく】 大勢がざわざわ騒ぐ ざざめく

取り敢へず【とりあえず】 まず 当面 差し当り

取り込む【とりこむ】 収穫する ②味方にする

取り立て【とりたて】 借金取り ②登用

取り繕う【とりつくろう】 体裁を作って

執り持つ【とりもつ】 世話する ②仲介する

鈍し【とろか】 鈍い slow 鈍感

泥塊【どろくれ】 泥の塊

十【とを】 十

門渡り【とわたり】 狭い所を渡る

どうもかうも【どんこん】 如何にも どうにも

とんだ【とんだ】 意外な 案外に

とんと【とんと】 全然 全く まるで

蔑【ないがしろ】 侮って無視する

内々【ないない】 内密に 密かに こっそり

縋ふ【なう】 撚り合わせる 「縄なう」

直す【なおす なわす】 正す 修理 かたづけ 隠す

直会【なおらい】 「直り会」 神事終了後神饌を頂く酒宴

直る【なお】 正しくなる ②場所を移る

中々【なかなか】 余程 かなり 随分 容易に

宥む【なだむる】 宥める 慰める

長持ち【ながもち】 長櫃 衣装調度品入れ

風【なぎ】 無風で波穏やかな海

名残惜し【なごりううか】 名残尽きない

何 為に【なして】 何故

準ふ 擬ふ【なぞる】 準える 似せる

宥む【なだむる】 宥める 慰める

納所【なっしょ】 禅寺の食糧収納所 ②炊事

舐めづる【なめずる】 しゃぶる
苗代【なえしろ なわしろ】 苗床
何かな欲し【なにがなほしか】 何か食べたい
靡く【なびく】 横に流れる ②心が傾く ③従う
生覚え【なまおぼえ】 うろ覚え
生臭し【なまくさか】 生の魚や肉の匂い 血腥い
生臭気【なまくさけ】 酒の肴 魚料理
鱈【なます】 野菜に魚肉を加えた酢和え
舐めづる【なめずる】 舐め回す
萎ふ【なゆる】 萎れる 萎縮 力が抜ける
奈落【ならく】《梵語》 地獄の果て
馴らす 慣らす【ならす なれかす】 練習して慣れ親しませる
成り上がり【なりあがり】 出世する 金持ちになる
成り下がる【なりさがる】 落ちぶれる ②たわわに実る
…なりと【なっと】 …なりとも
生業【なりわい】 職業
馴れ合ひ【なれや一】 慣れ親しんだ友達
慣れ慣れし【なれなれしか】 慣れ親しんでいる
苗代【なわしろ】 苗床 稲苗を育てる床
直す【なわす】 correct 正す 修理する ②片付ける
難儀【なんぎ】 難渋 苦勞
何様【なんさま】 何しろ 如何にも 兎に角
難渋【なんじゅう】 悩み苦しんでいる
何せうぞ【なんしゅうぞ】 何をしようと
何ぞ【なんぞ】 何か 何であるか どうしてか
納戸【なんど】 衣類や調度品を収納する所
何とは無し【なんとはなし】 何とすることはなく
何の【なんの】 何で 何ほどの ②どういたしまして
何や彼や【なんやかや】 なんだかんだ
贅【にえ】 神仏への供え物 「生け贅」
煮えかへる【にえかえる】 激怒する
匂ふ 臭ふ【におう】 香る ②臭う
苦い【にがが】 bitter ②苦しい
賑はふ【にぎあう】 賑う 活気がある
賑々し【にぎにぎしか】 大勢で賑やかな様
逃げ果す【にげおうす】 逃げ切る
逃げ惑ふ【にげまどう】 逃げ場を失う
躡る【にじる】 じりじりと押しつける
躡り込む【にじりこむ】 無理やり詰め込む
睨まふ【にらむ】 睨む

憎し【にっか】 憎々しい
にはか
俄【にわか】 突然 いきなり 急に
にやげ
若氣る【にやくる】 にやにやする
ぬか
吐かす【ぬかす】 ほざく 「言う」の卑語
貫く【ぬかる】 貫通する 突き通る
抜かる【ぬかる】 油断する 失敗する しくじる
抜く【ぬくる】 抜け出る 脱落する 外れる
ぬくぬく【ぬくぬく】 図々しく 図太く
主【ぬし】 主人 夫 君 あなた
ぬめ
滑る【ぬめる】 滑って前に倒れる
ぬる
寝る【ぬる】 寝る 横になる
微温し【ぬるか】 生暖かい ②手緩い
ぬるまゆ
微温湯【ぬるまゆ】 ぬるい湯 ②のろま 愚鈍
ぬる
微温む【ぬるむ】 温くなる 冷める
濡る【ぬるる】 濡れる
寝起く【ねおき】 寝起き 目覚め
ねき【にき】 傍らに そばに 近くに 「親ンにき居る」
寝覚め【めざめ】 目覚め
妬む【ねたむ】 嫉妬する 羨む ②憎む
うらや
ねなめ
舐ぶる【ねぶる】 舐める しゃぶる
ねんご
懇ろ【ねんごろ】 親切 丁寧 丁重 念入り
逃る【のがるる】 逃れる 避難する 避ける
の
退く【のく】 退ける 他の場所に動かす
の
退け【のけ のけろ どけ】 退け 立ち去れ
しりぞ
のごふ【ぬぐう】 拭う
ぬぐ
残り多し【のごりううか】 心残りだ 名残惜しい
野晒し【のざらし】 日光や風雨にさらす
乗す【のする】 上に置く 上になる
のたうつ【のたうつ】 七転八倒する
のつきに【のつきに】 いきなり 最初に 始めに
のぼ
上す【のぼする】 逆上する ②夢中になる
のろま
野呂間【のろま】 鈍間 愚鈍 間抜け
拝領【はいりょう はいよ】 恩賜 主君から物をもらう
生え抜き【はえぬき】 土着人 地域に生れ育った人
映える 栄える【はえる】 見映えが良い
齒痒ゆし【はがいか】 焦れたい
はき
脛【はぎ】 足のはぎ
はくろう
博労【ばくろう】 家畜商人
はげ
半夏【はげ】 半夏生
はこ
糞器【はこ】 清箱 便器 ②大便

婆娑羅【ばさらか】 乱暴 粗雑
端【はした】 fraction 残り物 不揃い 半端
走り【はしり】 ②初物 旬の野菜や果物
走りこぐら【はしりぐりゃ】 徒歩競争
弾む【はずむ】 にぎわう 調子づく ②金品を提供する
筈 杷ぞ【はぞ】 果物を千切る道具 矢筈状の竹竿
はだかる はたかる【はたがる】 両足を広げる
はったい粉【はっちゃんこ】 麦粉
はったと【はたと】 全く ②すっかり 突然 急に
淡竹【ハチク】 中国原産の竹
初穂【はつお】 神仏に供える初物
はったいこ【はったいこ】 麦粉 麦を炒って碾いた粉
ぱったり【はったと】 全く ②急に 突然
ぱっとう笠【ぱっしょうがさ】 真竹皮製笠 菅笠
削る【はつる】 削り取る 剥ぐ
ばとて 古語【ばってか】 然し けども でも
果て行く【はってく】 行ってしまう 帰る ②死ぬ
鼻蔓【はなづら】 鼻頭 鼻先
蔓延る【はびこる】 草木が伸びる ②盛んになる
懼り【はばかり】 遠慮 恐れ慎む ②便所
掃く【はわく】 箒で掃く
放る【ほうる】 放り散らす 投げ遣る
嵌る【はま】 没頭する 合致する 傾注 熱中
食み【はみ】 食料 飼料
食む【はむ】 食べる
孕む【はらむ】 妊娠する
ばらもん凧【ばらもんだこ】 唸り音を出す和凧
腸【はらわた】 内臓 臓綿
張り合ふ【はりあう】 競合する 対抗する
般若湯【はんにゃとう】 《梵語》 お酒
日がな一日【ひがないっちんち】 一日中 終日
日暮らし【ひぐらし へぐらし】 終日 残業 ②生業
僻む【ひがむ】 心が捻くれる 直でない
引き合わぬ【ひきあわぬ】 割に合わない
比丘【びく】 《梵語》 出家した男性の僧侶
比丘尼【びくに びくん】 《梵語》 出家した尼僧
日暮らし【ひぐらし へぐらし】 生業 ②終日
孫生ゆ【ひこはゆる】 切り株から発芽する ②長く延びる
日ひと日【ひして】 一日 終日
鏹一文【びたいちもん】 ごくわずかなお金

只管【ひたすら】 一途に 一筋に
ひだるし【ひだるか】 空腹 餓える
提ぐ【ひっさぐる】 携帯する
びっしり【びっしり ぎっしり】 隙間なく
引き剥ぐ【ひっぱぐる】 剥げ落ちる
人聞き【ひとぎき】 外聞
一入【ひとしお】 ひときわ 一段と 一層 格別
一溜【ひとたまり】 一時しのぎ
一花【ひとはな】 一時期 暫くの間 短時間
日向ぼこり【ひなたぼっこ】 日光浴
捻繰る【ひねくるる】 ねじる 無理に回す
陳者【ひねもん】 老熟者 ②不良品 中古品
隙入る【ひまいる】 時間がかかる
ひもじい【ひもじか】 腹が減った
日傭【ひゆう】 日雇いの賃金
日和【ひより】 天気 ②なりゆき
兵糧【ひょうろう】 食物 餌
ひよんな【ひよんな】 妙な 意外
放る 痢る【ひる へる】 放る 体外へ放つ 排泄する
干る【ひく】 潮が引く
日若し【ひわっか】 日若い 歳若い 可憐で若々しい
干割る【ひわるる】 干割れる
貧相【ひんそう】 貧しい相 みすばらしさ
鬢類【びんづら】 頬 ほっぺた
引ン抜く【ひんぬく】 引き抜く
符【ふ】 運 「符のよか」
無塩【ぶえん】 鮮魚
分限者【ぶげんしゃ ぶげんしゃどん】 金持ち 富豪
塞ぐ【ふさぐ】 閉じる
普請【ふしん】 土木建築をする ②禅寺の工事
布施【ふせ】 仏僧に施す物品や金銭
斑【ぶち】 斑点
ぶつつり【ぶつつり】 ぱっさり切り離す
無調法【ぶちょうほう】 粗相 粗忽 不行き届
不貞る【ふてる】 不貞腐る
不埒【ふらち】 不届きな者
触れ役【ふれやく】 情報屋 おしゃべり
分捕る【ぶんどる】 強奪する 奪い取る
剥がる【へがる】 減る 少なくなる
折【へぎ】 薄く削り取った竹ひご

削ぐ【へぐ】 表皮を薄く削る
日暮らし【へぐらし】 夕暮れまでの残業 ②終日
凹む【へこむ】 窪む
辺 端【へた】 辺田 岸辺
放る【へる】 放る 放屁する
辺土【へんど へんぴ】 辺地 不便なところ
頬骨【ほうげた】 頬骨 頬
放埒【ほうらつ】 無駄 おびただしい
神庫【ほくら】 祠 石祠 小さな社
綻び【ほこれ】 縫目が裂けたもの
ほざく【ほざく】 ぬかす [言う]の卑語
恣に【ほしいままに】 望み通り
柄【ほぞ】 木材の接合部分の凸起 雄器
臍【ほぞ】 臍 ②果実の蒂
椴木【ほたぎ】 パルプ用木片 ②焚き木
ほたゆ【ほたゆる】 戯れる 騒ぐ
打込む【ぼっこむ】 込みで 一緒に含める
綻び【ほつれ】 縫目や網物が解けたもの
火照る【ほてる】 暑く感じる 皮膚が焼けて痛む
程【ほど】 分際 分限 ②体格
迸る【ほとばしる】 勢い良く飛び出る
潤ぶ【ほとぶる】 水を含んでふやける
誉む 褒む【ほむる】 誉め称える
火めく【ほめく】 蒸し暑い
ぼやく【ぼやく】 残念がって小言を言う
煩惱【ぼんのう】《梵語》 心身を迷わす欲望や迷い
盆の窪【ぼんのくぼ】 後頭部の窪み
眉毛【まいげ】 眉毛
賄【まいない】 お礼の品 ②賄賂
前垂れ【まえだれ】 前掛け
任す【まかする】 leave 自由にさせる
賄う【まかなう】 食事を供応する ②やりくる
摩訶不思議【まかふしぎ】 非常に不思議
まくしたつ【まくしたつる】 べらべら喋る
負く【まくる】 負ける 戦に破れる
捲る【まくる】 巻き上げる ②盛んにする
曲ぐ【まぐる】 曲げる 捻曲げる ②自分を押える
紛し【まぎらわしか】 間違いやすい
枉げて【まげて】 無理に 強いて 是非とも
誠に【まこて】 全く quite 本当に

間尺【ましゃく】 計算 割に合わない
混ず 交ず【まざる】 mix 混合する
跨ぐ【またがる】 股を開いて上に乗る
股座【またくら】 股間 股の付根 ②陰部
まつぼり【まつべり】 集め纏める ②へそくり
纏は(わ)す【まつわる】 巻き付く 絡みつく 付き纏う
償ふ【まどう】 弁償する
間怠し【まどろしか】 もどかしい 手ぬるい
間無し【まなし】 絶え間なく 頻繁に
免る【まぬがるる】 免罪される 逃れる
瞬く【まばたく】 瞬く
眩し【まばいか】 眩しい 目映い
塗る【まみるる】 濡れて汚れる
忠実【まめか】 真面目 実直 誠実
馬屋【まや】 馬小屋
放る【まる】 放る ②放尿する
曼陀羅【まんだら】《梵語》 蓮の実 ②仏の絵
見合ふ【みあう】 つりあった分量
見合はす【みあわする】 検討する 次回に廻す
見掛け【みてくれ】 見栄 外見
見切り【みきり】 見届ける 決心 ②見限る ③安売り
身仕舞ひ【みじまい】 身支度 dress 着付け
身動く【みじろぎ みじろぐ】 少し体を動かす
見す【みする】 見せる ②決意表明
水子【みずこ】 流産した胎児
見たむなし【みたむなか みつともなか】 見たくもない
道すがら【みちすがら】 道中 来る途中
身繕ひ【みづくろい】 身支度 dress 着付け ②化粧
見咎む【みとがむる】 見咎める 見て怪しく思う
見所【みどころ】 将来性 ②値打ちある所
水口【みなくち】 水田の取水口
見習う【みならう】 見て覚える
見目 眉目【みめ】 見た目 容貌
身持ち【みもち】 品行 行い ②妊娠
名代【みょうだい】 代理人
夫婦【みょうと】 夫妻
むかご【むかご】 山芋の実
向かふ【むかう】 立ち向かう 敵対する 対峙する
惨い【むごか】 ひどい 冷酷 残酷
無惨【むざん】 残酷 乱暴

無常【むじょう】 常でない はかない
蕤【むしろ】 稻藁などで編んだ敷物
結ぼる【むすぼる】 取っ組み合う ②合体する
咽ぶ【むする むせぶ】 むせる 咳込む
無慙【むぞうか】 可愛い darling 可愛らしい
無惨気 無慙気【むぞげ むぞなげ】 不憫だ 痛ましい 可哀相
憤る【むづがる】 機嫌を悪くする 不快になる
縛る【むつるる】 絡まる ②仲互い ③混乱する
飯次【めしつぎ】 飯櫃 炊飯ジャー
滅相【めっそう】《梵語》 法外 とんでもない
面々【めんめん】 各人で 一人一人
申す【もす】 ます 敬って言う 「仕えもす」
申せ【もせ】 して差し上げろ 「遣りもせ」
悶ゆ【もだゆる】 煩悶する 悩み苦しむ ②急ぐ 早くする
擡ぐ【もたぐる】 擡げる 持ち上げる ②煽てる
持ち崩す【もちくずす】 品行を乱す ②破産する
勿体なし【もっちゃーなか もって一なか】 勿体ない
縛る【もつるる】 絡まる 混乱する ②仲違いする
持て成し【もてなし】 接待 待遇 振る舞い
回らん【もとらん】 回転しない ②口が回らない
物悲し【ものがなしか】 何となく悲しい
揉める【もむる】 ごたごたする やきもきする 紛糾する
舂ひ【もやー もやい】 催合う 共同 共有 助け合う
燃ゆ【もゆる】 燃える 火がつく ②意欲が沸く
悶着【もんぢやく】 悶着 もめごと
翻筋斗【もんどり】 宙返り とんぼ返り 「もんどりうつ」
糲櫃【もんびつ】 糲の貯蔵容器
焼き処 灸【やあと】 お灸
やうやう【ようよ よよして】 漸く 能く やっと ②次第に
族【やから】 一族 一門 一派 仲間
益体なし【やくたいなか】 役に立たない
役無し【やくなし】 無能 役立たない
薬罐【やくわん】 湯沸し器 煎じ薬用の器
やっと【やっと】 沢山 大層
宿す 宿る【やどる】 妊娠する 子供を孕む
脂下がる【やにさがる】 気取る 得意顔する
病む【やむ】 病気になる 患う
やむごとなし【やはなか】 大変だ 大儀だ
遣らす【やらす】 (上代敬語) 人に物を遣る 差し上げる
過ごす【やりすごす】 通過するのを待つ

遣り申す【やりもす】(上代敬語) 差し上げる
脂やにもち【やんもち】 捕もちりもち鱒
結ゆい【ゆい】 農作業などの労力交換
善よふ【ゆう】 善く
善ようぞ【ゆうぞ】 善くぞ
言ゆう舞みい【ゆうみやー】 言ひわずにおこう
歪ゆがむ【ゆがむ】 歪ひずむ 変形する
揺ゆる【ゆる】 揺り動かす
湯文字【ゆもじ】(女御言葉) 腰巻き 和装下着 浴衣
緩ゆるい【ゆるか】 弛ゆるい
養生【ようじょ】 療養する
能えうう能えうう【ようっと ようと】 漸ようやく 能く やっと ②次第に
要えうなし【ようなし】 お役御免 役に立たない
善よか【よか】 善い 優良
歪ゆがむ【よがむ】 歪ひずむ 変形する
斧【よき】 手斧
避よく【よくる】 避ける 道を譲る ②遠ざける
憩よこふ【よくう】 休憩する ②欠勤する
余計【よけい】 余分に 沢山 多く
横座【よこざ】 上座 横敷物のある座席
善よう御座ごる【よござす】 承知しました
依え怙こ鼻ひ肩い【よこひいき】 一方だけひいきする
汚よごる【よごるる】 汚れる
夜更より【よさり】 夜 晩 ※「さり」はやって来るの意
よしなに【よしなに】 都合よいように 適当に
誼【よしみ】 親しい間柄 縁故 交わり
余所者【よそもん】 余所から来た人
様相悪し【よそわしか】 不潔だ 汚い
四つ足【よつあし】 獣 **beast** 畜生
夜伽【よとぎ】 伽 お通夜
夜振よぶり【よぶり】 夜間の漁
よっぼど【よっぼで】 よきほど 余程 かなり
夜な夜な【よなよな】 毎晩
婚よばひ【よばい よびゃー】 夜中に女部屋に忍び込む性風習
黄泉路【よみじ】 冥土へ行く路
夜々して【よようして】 ようやく やっと ②次第に
万よろず【よろず】 多種雑多 ②不要品
昨よん晩【よんべ】 昨夜
埒明かぬ【らちあかん】 埒らちらない
利口者【りこもん】 賢い人 知恵者

律儀【りちぎ】 義理堅い
料簡【りょうけん】 了見 考え 思慮 気持ち
悋気【りんき】 嫉妬 やきもち
六道【ろくどう】《梵語》 死後の世界
呂律【ろれつ】 ものを言う調子
弁る【わきまゆる】 善悪を判断する
分く【わく】 木挽 木材を縦に分断
態と【わざと わんざと】 故意に 態々
態々【わざわざ】 特に 取り立てて 故意に
儂【わし】 私 自分
忘る【わするる】 忘れる
早稲【わせ】 早生 早熟 ②おませ
移徒・渡座【わたまし】 落成祝い 新居披露
戦慄く【わななく】 恐怖で体が震える おのの
喚く【わめく】 大声で叫ぶ どなる
わや【わや】 駄目になる
わやく【わやく】 無茶 悪い冗談
藁楷【わらすぼ】 稲藁の芯
藁苞【わらづと】 土産を入れる容器
我【わり】 ②お前〔あなた〕の卑語

梵語《仏教語》

挨拶 ①禅問答で相手の悟りの深淺を試す ②応答 ③儀礼の言葉 ④祝意謝意
阿吽 a-hum ①最初と最後 ②口の開閉(仁王・狛犬) ③呼気・吸気「阿吽の呼吸」
闍伽 argha 仏前に供え水
諦める 断念する 思いを断つ
明け六 卯の刻(6時頃)に鳴らす鐘⇔暮六つ
足を洗う 賤しい勤めをやめて堅気になる
悪口 人を悪し様に言う
十悪(謀反・謀大逆・謀叛・悪逆・府道・大不敬・不孝・不睦・不義・内乱)の一
痘痕 arbuda 痘瘡が治った後に残る痕跡
甘茶 ガクアジサイの変種 灌仏会に甘露になぞらえて釈迦像に 掛ける甘い茶
天の邪鬼 人に逆らい邪魔をする 人の言に逆い片意地を張る
有り難う 感謝の意を表す挨拶語
行火 温熱器
安心 信仰心を深めて迷いがなく → 安心決定
意識 mano-vijnana 認識 思考する心 精神活動
意地 ①気立て 心根 ②意志を通そうとする心 ③物欲
以心伝心 ①師匠の真理を弟子に伝える ②言葉でなく互いの心意が相手に伝わる
一期一会 生涯に一度限りまみえること → 「一期一会の縁」

一念発起 ^{ほつき} ①直ちに信仰の道に入ること ②思い立って決心する

一蓮托生 ^{いちれんたくしょう} ①死後極楽往生して同一の蓮華に身を託す

②善悪に関わらず運命を共にする

因果応報 ^{いんがおうほう} 過去の善悪の行いに応じて現在の幸・不幸の果報が生じ、現在の行いが未来の果報を生む

因縁 ^{いんねん} 因は直接的な原因、縁は間接的な条件 因と縁から結果が生じる →運命

引導 ^{いんどう} 迷っている衆生を仏道に導く 葬儀の時、導師が転迷開悟の法話を説く

有頂天 ①世界の最も上に位置する処 ②熱中して我を忘れる 得意絶頂

うろろう 方向が定まらず動き回る様 うろつく

回向 ^{えこう} ①功德を自らと他者の利益のために振り向ける ②死者の成仏を祈り供養する

会者定離 ^{えしやじょうり} 会うものは必ず離れる運命にある (この世の無常) → 生者必滅会者定離

縁起 万物は実態はなく様々な原因や条件によって成立している →因果 因縁

大袈裟 ^{おおげさ} 物事を実質以上に誇張していること →大仰

往生 ^{おうじょう} ①この世を去り別の世界に生まれ変わる 極楽浄土に生まれる ②死ぬこと

③諦める ④閉口する

お釈迦になる 地藏・阿弥陀の像を釈迦像と間違えて鑄造したことから造り損ねの意

お世辞 相手を喜ばせようと実際以上にほめることば

億劫 ^{おっくう} 面倒くさく気が進まない

開枕 ^{かいちん} 開被安枕の略 就寝の意 午後9時に就寝の合図に鐘を搦く 九時就寝 (消灯)

餓鬼 ^{がき} ①悪業の報いで餓鬼道に落ちた亡者 ②幼児のことを卑しんで言う語

覚悟 ^{がくご} ①迷いを去り道理を悟る ②記憶 暗唱 ③心構え ④諦める 観念する

学生 ^{がくせい} 学業を修める者

過去 ^{かこぜ} ①過去世の略 ②過ぎ去った時 以前 前歴

我慢 ^{がらんどう} ①自分を偉ぶり他を軽んじる 高慢 ②我を張り他に従わない 強情 ③忍耐

伽藍堂 ①寺院の中で伽藍神を祀ってある堂 ②大広間

瓦 ^{kapala} 粘土で焼いた屋根材

勧請 ^{かんじょう} ①神仏の来臨を請う ②神仏の分霊を請じ迎えて祀る

堪忍 ①堪え忍ぶ 我慢する ②怒りをこらえて許す 勘弁

観念 ①観察して思念する ②諦める 覚悟 ③意識の内容 ④見解

頑張る 「我に張る」の転 ①我意を張り通す ②忍耐努力する ③占領して動じない

帰依 ^{きえ} 神仏に服従してすがる

機根 仏の教えに従い修行しうる衆生の素質 →気根

喜捨 喜んで寺社に寄進する 貧しい人に施しをする

祈祷 神仏に祈ること

喫茶 お茶を飲む

行儀 仏教の儀式 修行の規則 ②作法 ③行為 行状 →行儀作法

行水 清水で身体を洗い清めること

鬼門 ^{おんよう} 陰陽道で万事に忌み嫌う方角 (北東)

救済 ①宗教による人間の究極的な救い ②救い助ける

境界 境 区域

教師 ①宗教上の教化を司る人 ②児童生徒を教育する人 教員 ③学術・技芸指導者
行持 仏道を修行すること
教授 大学など学術・技芸を指導する人
恐怖 恐ろしく感じる事
救済 宗教による人間の究極的な救い ②救助
嚏 鼻粘膜の刺激による反射運動
愚痴 言っても仕方ないことを言っただくこと
功德 ①善行の結果として与えられる神仏の恵み 御利益 ②善行
工夫 ①精神修養の心得 ②最も良い方法を考えること
供養 三宝（仏・法・僧）や死者の霊に供える供物
庫裡 寺の台所
暮れ六 酉の刻（午後6時頃）鳴らす鐘
葷酒 葷（ネギやニラなど臭気の強い野菜）と酒 「葷酒山門に入るを許さず」
境内 ①社寺の境域内 ②境界の内
敬礼 ①敬う ②敬意を表し礼をする
袈裟 kasaya 僧侶が左肩から右腋下に掛けて衣を覆う布
化身 ①衆生済度のため神仏が人間の姿になって世に現れること
解説 vimoksa 束縛から離脱して自由になること
苦悩から解放され絶対自由の境地に達すること 涅槃
決定 決まっていること 疑いないこと
結集 仏陀の教えを集め教団を統一し教典を編集したこと
外道 仏教以外の教え 邪説、またそれを説く者
下品 生前に積んだ功德の違いに応じて九品を上中下に三分した最下位の物 ②下等
見聞 見聞きして得た知識や経験
玄関 禅寺の方丈に入る門 玄妙な道に入る関門 正面入口
現在 三世の一つ 現世 今生 ②過去と未来の接点
業 karman ①行為・言語・心など三つの行為 ②業腹の略
講師 講演や講義をする人 教授
向上 仏教で悟りの知見 ②優れた状態に達する 進歩 ③より上 ④最上 最高
極楽 Sukhavati 全く苦患のない安楽な世界 阿弥陀仏の居所、浄土
後光 仏・菩薩の体から放射する光輝 仏像の背後に添えた金色の輪 光背 光輪
乞食 ①僧が食物を乞う修行の一つ ②物貰い 乞食
ご馳走様 ①ふるまい もてなし ②豪華な食事
ご利益 神仏が衆生に与える利益 霊験 ②効能
勤行 ①仏道修行を勤める ②時を定めて仏前で読経する 礼拝
権現 仏・菩薩が衆生救済のため種々に姿を変えて権に現れること 権化
言語道断 ①仏教の奥深い真理は言葉で説明できない ②言葉で表現できないこと
根性 ①心根 性根 ②困難に挫けない強い性質
在家 ①出家していない人 俗人 ②民家
賽銭 ①神仏に奉る賽物の銭 ②神仏に参詣して奉る銭

済度 さいど 仏・菩薩が衆生を救済して涅槃に渡らせること
悟り ①迷いが解けて真理を会得すること ②理解する 気づく 知る
作法 ①正しい起ち居・動作の方式 ②決まり しきたり
三界 衆生が生死輪廻する三種の世界（欲界・色界・無色界） 三世
三昧 さんまい **samadhi** 心が安定した状態 一つのことにより心が集中できた状態 一心不乱
懺悔 ざんげ キリスト教で罪悪を自覚し、告白して悔い改めること
三身 三身仏（法身・報身・応身）
三途の川 さんずのかわ 死者が七日目に渡るといふ冥土の途中にある川
三宝 仏様・法（仏が説いた教え）・僧（仏に従うお坊さん）
山門 寺院は山号を有しているのので、寺院の門のことをいう
自覚 ①自ら悟りを開くこと ②自分のあり方をわきまえる 自己意識

四苦八苦 ①四苦（生・老・病・死）

愛別離苦 あいべつりく（愛する者との別れる苦しみ）

怨憎会苦 おんぞうえく（怨み憎しみ合う同士が会う苦しみ）

求不得苦 くふとく（求めるものを得ることのできない苦しみ）

五陰盛苦 ごおんじょうく（「元氣を持て余す」という苦悩）

※五陰とは、色受想行識の五つを指し、人の精神作用を構成する五つの要素で「空」である。

空は、地（大地の骨）・水（血や体液）・火（体温）・風（呼吸）からなる。

地獄 naraka 奈落 六道の一つ

現世で悪業をはたらいた者がその報いとして死後に苦果を受ける処

自業自得 自ら招いた悪業の報いを自らで受けること 自業自縛

自然 ①神により生成されたもの ②人の力が及ばないこと ③あるがまま 天然

子孫 ①子や孫 ②血筋や家系 末裔

七転八倒 しちてんぱつとう 転げ回って悶え苦しむこと

十戒 十条の戒律

不殺生戒 せつじょう（生き物を殺さない）

不偷盜戒 ちゆうとう（他人の物を盗まない）

不邪淫戒 じやいん（配偶者以外と交わらない）

不妄語戒 もうご（嘘をつかない）

不飲酒戒 おんじゆ（飲酒をしない）：「般若湯」ならばよい

不塗飾香鬘戒・不香油塗身戒 ふずじきこうまん（着飾ったり香水は使わない）

不歌舞觀聽戒 かぶかんちよう（歌舞音曲：歌ったり踊ったりしてはいけない）

不坐高广大牀戒 ふざこうくわうだいしよ（坐が高くて広いベッドには寝ない）

不非時食戒 ふひじじき（正午以降は食事をしない）

不築金銀宝戒 ふちくこんぎんほう（金銀宝石などを求めない）

實際 ①存在するものの真実 ②現実 事実

慈悲 仏・菩薩が衆生を哀れみ慈しむ心 苦を除く ②慈悲 情け

邪見 じゃけん 邪な見方 誤った考え

娑婆 saha 苦しみが多い忍耐すべき世界 この世 ②自由な世界 俗世間

邪魔 ①仏道修行を妨げる悪魔 ②障害 妨げ
じゃんけんばい じゃんけんのかけ声
自由自在 思いのまま
衆生 sattva 生きとし生けるもの 一切の生物 人類や動物
授業 学術・技芸を教え授けること
数珠 仏・菩薩を礼拝するとき手に掛けるもの
成就 成し遂げる できあがる
上品 ①最上位 最高級 ②気品がある 品がよい ③品質がよい
修行 ①仏の教えを実践する ②学門・技芸を修練する
宿命 前世から定まっている運命
種子 植物のが受精して成熟したもの
執着 強く心にとらわれること 思い込んで忘れられないこと
住職 住持職の略 寺の僧侶
出家 家を捨て仏門に入ること ⇔ 在家
出世 ①諸仏が衆生済度のためこの世に出現すること 仏道に入り和尚の位階を受ける
②この世に生まれ出ること ③昇進が早いこと 身分や地位が高くなること
成仏 仏になること 煩悩を断ち悟りを開くこと ②死ぬこと
しょっちゅう 始終 絶えず 普段
精進 ①ひたすら仏道修行に励むこと ②心身を清め行いを慎むこと
正念場 性根を発揮する重要な場面 大事な場面 局面
丈夫 達者 健康 壊れにくい
食堂 食事をする部屋 料理を食べさせる店
書写 ①教典を書き写す ②文字を書く
所詮 ①経文に表されることわりの文句 ②詰まるところ 結局
所得 収入 利益 生産活動の対価として支払われる報酬
所有 自分の物として持っている物
真空 ①真実の空 ②物質のない空間 ③空白の状態
信心 信仰心 神仏を信仰する心
人身 ①人の体 ②個人の身分
信女 「清信女」の略 ①女子の仏教信者 ②女子の戒名の位
施主 ①寺や僧侶に物を施す人 ②法事や葬儀を行う当主 ③建築主
刹那 ksana 極めて短い時間 一瞬
荘厳 ①仏堂や仏像を天蓋などの仏具で飾る ②おごそか 重々しく立派
卒塔婆 stupa ①塔 ②追善供養のため墓に立てる板
大黒柱 ①家の中央に最初に立てる柱 ②家や団体の代表者
醍醐味 ①醍醐のような最上の教え ②醍醐のような味 美味をほめることば
大事 ①出家して悟りを開く ②重大事件 ③危ういこと 容易でない
大丈夫 ①立派な男子 ②頑固 ③確かに 間違いなく
台無し ①物事がひどく傷んでいること ②全然 まるで
凧 細い竹籤に紙を貼り、糸をつけて空に飛ばす玩具

他生の縁 生まれる前から結ばれた因縁

達人 ①学術・技芸に秀でた人 ②物事の道理に通じた人

達者 ①物事に熟達した人 達人 ②抜け目のない人 ③身体が丈夫な人 壮健
だらしない 節度がない しまりが無い

他力本願 ①阿弥陀仏の本願に衆生がそれを頼って成仏を願う ②他人を当てにする

達磨 Bodhidharma ①禅宗の始祖 ②達磨大師の座禅像を模した張り子の玩具

檀那・旦那 dana 財物を施与する仏家信者 施主 ②召使いが主人を呼ぶ語

③夫 主人 ④得意客をさして呼ぶ語

知恵 ①宗教的な叡智 ②物事を適切に処理する能力 ③哲学的知識

畜生 ①畜生道に生まれた者 ②禽獣・虫魚の総称 ③人を罵って言う語

知事 ①禅寺の庶務を司る維那 ②都道府県の首長

弔問 遺族宅を訪問してお悔やみを言う 弔慰

長老 ①仏道に優れ、歳長けた僧侶 ②高齢者の総称 ③禅宗寺の住職

④経験者 老練

通達 ①深くその道に達する ②告げ知らせる

弟子 師に従って教えを受ける者 門弟 教え子

徹底 底まで貫き通る 中途半端でない

伝供 ①仏や祖師に供物を供えるために数人の僧が並び、供物を手渡しで順次伝送
すること ②屋根瓦などを手渡しすること 伝供取り

道具 ①仏道修行の用具 仏具 ②物作りや事を行うのに用いる器具の総称 ③武器

道場 ①修行の場所 ②武芸の練習場所 ③訓練のため団体生活をする所

堂々巡り ①社寺の堂の周りを巡って祈願する ②同一の場所を巡ること

同房 同じ部屋 同居すること

東司 禅寺で「便所」のことを言う

塔婆 ①卒塔婆 ②墓

道楽 ①趣味に耽り楽しむ ②物好き 好事 ③遊興に耽る

得度 ①剃髪して仏門に入る ②生死の苦海を渡り涅槃の彼岸に渡ること

どっこいしょ 力を入れたり大儀などきの掛け声 ②民謡の囃子詞

内緒 内々の秘密ごと

納所 寺院で施物を納め会計や寺務を行うところ ②年貢倉庫

七転び八起き 度重なる失敗にも屈せず奮起すること

奈落 naraka ①地獄 ②物事のどん底 ②劇場の舞台の下

仁王立ち 厳めしく突っ立つ

肉眼 ①眼で見る眼識 ②眼球 ③視力

人間 ①人の住むところ 世の中 ②社会的存在で人格を持った人 人類

念仏 阿弥陀仏の名号を唱えること

配役 ①仏事の役を割り当てる ②俳優の役を決める 役割

馬鹿 moha ①無知(僧侶の隠語) ②非常識 愚か者 ③無益 ④役立たず

万歳 ①長い年月 ②いつまでも生きること ③目出度いこと

般若湯 僧侶の隠語で「酒」のこと

破壊 打ち壊すこと

悲観 ①この世に厭世観えんせいがんを起こすこと ②落胆 失望

彼岸 ①生死の海を割ったって到達する終局 ②彼岸会の略

③春分/秋分の日前後七日間

比丘 びく bhiksu 仏門に帰依して具足戒を受けた男子 修行僧

比丘尼 びくに bhiksuni 出家して具足戒を受けた女子 尼僧

火の車 ①地獄にあるという火が燃えている車 ②生計が苦しいこと

秘密 ①真言密教 ②隠して人に教えないこと 非公開 ③内緒

平等 全てのもものが一様で等しい 偏りや差別がないこと

不覚 ①正体がないこと ②思慮分別がないこと

不思議 「不可思議」の略 ①原因や理由が解らないこと ②怪しく思う

普請 ①大衆に請うて搭堂の建築の労役に従事して貰う ②建築土木工事

布施 ふせ dana 人に物を施し恵むこと ②僧侶に物品を施し与える

不退転 志を貫き屈しないこと

不断 普段 ①絶え間がない ②平生 平常

分別 種類により選り分ける 区別をつける

無事 ①変わったことがない 平穩 健康なこと ②自然のまま ③暇

平常心 平静な心

変化 ①神仏が仮に人の姿となって現れる 権化 ②形が変わって違った物になる

法会 ①多くの僧侶を集め仏の教えを説く会合 ②死者の追善供養

法衣 尼僧が着用する衣服

法事 ①仏法の行事 法要 ②死者の追善供養のため七日毎の仏事や年忌

坊主 ①寺の住職 僧侶 ②頭髪を剃った人 童坊 ③男児

方便 ①衆生を巧みに教え導く手段 ②目的達成のための手段 便宜

菩提寺 家代々が帰依し追善供養を営む寺 掛かり寺

盆 ①「盂蘭盆」の略 ②浅く平たい物を載せる道具

煩惱 ぼんのう klesa 衆生の心を悩ませる妄念もうねん 百八煩惱

凡夫 ①煩惱に束縛されて迷っている人 ②凡人 普通の人

魔羅 まら mara 仏道修行の妨げになるもの 人心を惑わすもの ②陰茎 (僧侶の隠語)

三日坊主 飽きやすく永続きしないこと (またはそういう人)

冥加 みよが ①「冥加金」の略 ②神仏の助力 冥利 ③報恩 お礼

冥利 みより ①神仏が与える恩恵 冥加のご利益りやく ②善行の報い (御利益ごりやく) ③恩恵

未来 ①三世 (過去・現在・未来) の一つ ②来世

無我 ①私心がない 我意がない 無心 ②我を忘れて没頭する

無学 ①煩惱を断ち、もはや学ぶことがない境地 ②学問や知識がないこと

無垢 ①煩惱を離れて汚れがないこと ②心身の汚れがないこと うぶ

無常 ①一切の物は生滅変化していて常住でないこと ②人生のはかないこと

無分別 ①ことばや概念に捕らわれないこと ②分別のないこと 思慮がない

冥土 ①死者の霊が迷い行くところ ②黄泉

名利 名高い寺

冥福 ^{めいふく} ①死後の幸福 ②死後、追善供養の仏事
迷惑 ①迷うこと ②困り苦しむ 難儀する
滅相 ^{めつそう} ①物事が消滅する様 ②法外 とんでもない
滅法 ^{めつぼう} ひどく道理に外れていること とても素晴らしいこと 法外
勿体ない ^{もつたい} ①神仏などに対して不都合なこと ②過分で畏れ多い かたじけない
 ③無駄になるのが惜しい
門徒 ①仏門を同じくする信徒 信者 ②門人 教え子
問答 質問と応答
夜叉 ^{やしや} 人を害する鬼神である反面、財宝神として信仰された
遊山 ^{ゆうざん} ①禅家の修行を終え、諸方に遊歴すること ②野山に遊びに出る
油断 不注意 注意を怠る 気を許す
用心 ①心を用いる ②予め注意する 万々に備える
欲 欲しがる心
抑止 押さえ止めること
礼賛 ^{らいさん} ①三宝を礼拝して功德を讃歎する ^{さんたん} ②褒め称える
力士 ①「金剛力士」の略 ②力の強い人 ③相撲取り
立身 ①一人前になること ②出世すること
立派 ①一つの宗派を立てること ②文句のつけようがない
臨終 ^{りんね} 死に臨む 死に際 末期
輪廻 ^{りんね} samsara 衆生が三界六道に迷いの生死を重ね止まることがないこと ^{るてん} 流転
融通 ①融けあって通ずる ②金銭の流通 やりくり
老婆心 必要以上の親切心
六道 ^{ろくどう} 衆生が住む六つの迷界（地獄道・餓鬼道・畜生道・修羅道・人間道・天上道）
六根 人間の認識の根幹である六つの器官（眼・耳・鼻・舌・身・意）
六根清浄 六根のそれぞれが種々の功德を有して超人的能力を発揮するとともに、
 清浄を祈願する 霊山に登山する際、金剛杖を携えて六根清浄を唱える。
律儀 ^{りちぎ} ①義理堅いこと ②健康なこと 壮健
脇侍 本尊の両脇の脇士
 阿弥陀如来に観音菩薩と勢至菩薩
 釈迦如来に文殊菩薩と普賢菩薩
 薬師如来に日光菩薩と月光菩薩
輪袈裟 ^{わげさ} 袈裟の一種 首に掛け胸に垂らす輪状の袈裟

「天草方言」に見られる「京都方言」

あいそ【愛想】 あいた【あ痛し】 あいぼれ【相惚れ】 あいもん【和へ物】
 あおのく【仰のく】 あおもん【青物】 あおる【煽る】 あか【闕伽】
 あがったり あかべ あからん【開からん】 あがり【上り】 あがる【上がる】
 あがんなる あく【開く】 あくせく あくぞもくぞ【芥】 あぐら【胡座】
 あぐらかく あけすけ【明け透け】 あこうなる【明かうなる】 あこぎ【阿漕】
 あごた【顎】 あしつぎ【足継ぎ】 あすびほうける【遊び惚ける】 あすぶ【遊ぶ】

あすぽーい【遊ぼう】 あぜまめ【畦豆】 あだぐち【徒口】 あたまわり【頭割】
あたり【当たり】 あつけらかん あっだけ あっち【彼方】
あっちこっち【彼方此方】 あっちびんた あっちゃこっちゃ あっぱっぱ
あてこすり【当て擦り】 あてすっぽ【当て推量】 あとげつ【後月】
あとぞえ【後添え】 あととり【跡取り】 あぶにゃー【危うく】 あぶらうる【油売る】
あぶらげ【油揚げ】 あぶる【焙る】 あほらしい あまンじゃく【天の邪鬼】
あやかる【肖る】 あやふや【曖昧】 あら【粗】 あらいざらい【洗い浚い】
あらかた【粗方】 あらさがし【粗探し】 あらまし ありぎり【有り切り】
あるかんかい あるもんか あんき【安気】 あんじゅ【庵住】 あんじょう
あんじる【案じる】 あんなり あんばい【塩梅】 あんよ【歩行】
いいあい【言い合い】 いいさらす【言い晒す】 いかす いかものぐい いかれた
いかん いきなした いきぬぎ【息抜き】 いきやがった いきよった いきよる
いこか いごかす【動かす】 いごく【動く】 いた【行った】 いちころ
いちまき【一卷】 いちやつく いちやもん いっけ【一家】 いっち【一】
いっしょうら【一張羅】 いっちょまえ いっとき【一時】 いっぱし
いっぴゃ【一杯】 いっぷく【一服】 いてー【痛い】 いでる【茹でる】
いときりば【糸切り歯】 いなう【担う】 いなづま【稲妻】 いびる【炒る】
いやしんぼ【卑しん坊】 いらう【弄ぶ】 いらんこつ 入りびと【入り人】
いわった【言った】 いわれん いんきよ【隠居】 いんにゃ【否】 いんま【今に】
うくる【受ける】 うけとり【受け取り】 うじゃうじゃ うしろだて【後ろ盾】
うずく【疼く】 うせる【失す】 うそこき うだぐち【無駄口】 うちげ
うっちゃる うつつかつつ うつつけ うつぶせ【俯せ】 うつる【移る】
うとた【歌った】 うめる【埋める】 うらはら【裏腹】 うろちよろ
うわっぱり【上っ張り】 うんき【温気】 うんざり うんとこさ
えーあんばい【塩梅】 えーかっこ えぞく えっと えて【得手】 えてして
えべす【恵比寿】 えらい【豪い】 えろうなる【偉くなる】 おいでなはる
おいでる【お出でる】 おうかた【大方】 おうかん【往還】 おうごと【大事】
おうた【合った】 おうちやく【横着】 おうとる【合うてる】 おうへいな【横柄な】
おうきに【おうけに】 おき【澳】 おきしな おきれ【起きろ】 おこた【炬燵】
おこわ【強飯】 おしきせ【お仕着せ】 おしなべ【押し並べ】 おしめ【襦袢】
おじや【雑炊】 おじゃん おそえる【教える】 おそそ おたく【お宅】
おちど【落ち度】 おちやめ【お茶目】 おちよくる おちよぼぐち おつい【お汁】
おつけ【大御おつけ】 おっさん【小父さん】 おっちょこちよい
おとろし【恐ろし】 おつゆ【お汁】 おとこぎれ おどし おどれ【己】
おとろし【恐ろし】 おんなし【同じ】 かいもん【買い物】 かきなはる
かかりゆ【掛かり湯】 かかる【掛かる】 かけや【掛け矢】 かごむ【屈む】
がさつ かさん【貸さぬ】 かする【貸す】 かたげる【担ぐ】 かたっぱし【片っ端】
かたつぶり【蝸牛】 かたっぽ【片一方】 がつがつ【且且】 かつれる【飢える】
がなる かぶりつく がぶりふる かぶる【被る】 かまける かみかみ【噛みながら】
かやす【返す】 からげる【絡ぐ】 かわや【厠】 かわらけ【土器】 かんかんでり

かంగる【勘ぐる】 かんしゃくもち【癩癩持ち】 きいくたぶれ【気草臥れ】
きいつかう【気を使う】 きいもむ【気を揉む】 きかん【利かない】 きさく
きさま【貴様】 きしょく【気色】 きずき【生漉き】 きっぱし【切っ端】 きてんか
きとんなる きなした【来為した】 きばる【気張る】 きほうじ【気放じ】
きもいり【肝煎り】 きもん【着物】 きやがった きやす【来ます】
きゃたつ【脚立】 きょくる【局る】 きよった きりばん【切り盤】
きりもん【切り物】 きんたま【金玉】 くうた【喰うた】 くける くさす【腐す】
くそつたれ【糞垂れ】 くだぶれ【草臥れ】 くだまく くちなわ【朽ち縄】
ぐちる【愚痴る】 ぐってかかる ぐてんぐてん ぐど【竈突】 ぐどか【諄い】
くやす【壊す】 くらがり【暗がり】 ぐるっと ぐれる くれん【呉れぬ】
くんな【来るな】 くんまき【首巻き】 けしからん【怪しからぬ】 げす【下種】
げせん【解せぬ】 けったくそ【卦体糞】 けつまずく【躓く】 げな けぶり【煙】
けろっと げんなおし げんなりする けんびき【肩癖】 こうせん【口銭】
こうてくる【買って来る】 こえたんご【肥担桶】 こかす【倒す】 こきおろす
こぎる【小切る】 ごくどう【極道】 こけた【転けた】 こけら【柿】 こじんまり
こせこせ こそぐる【擦る】 ごそっと ごたく【ご託宣】 ごたごた こっちべら
ごっちゃませ ごつつんこ こつつんこ ごとく【五徳】 ことわけ【事訳】 こなす
ごぬる こぶしる こぼしる こましゃくれ こらえん ごろごろさま ごろっと
こんじょわる【根性悪】 こんなり さいぜん【最前】 さかとんぼ
さかむけ【逆剥け】 さかる【盛る】 さきच्चよ さくばみち【作場道】
ざこね【雑魚寝】 ささら【簋子】 さしあたって【差し当たり】 さしかけ【庇】
さしでぐち【差し出口】 さしより【指し寄り】 さする さばよむ【鯖読む】
ざら さらえ【木柁】 さらゆ【新湯】 さるまた【猿股】 さんだわら【棧俵】
しいもって【為以て】 しくさる【為腐る】 しける【時化する】 しこうする しこたま
しこる じさま【爺さま】 じさん【爺】 しかと【確と】 しとんなる
しといた しとらん しとんなる しびる しゃくる しゃちこぼる【鯨こ張る】
しゃぶる しゃべくる【喋繰る】 しゅむ【染む】 しょい【醤油】 しょうけ【筥】
しょうことなし【せうことなし】 しょうね【性根】 しょけん【世間】
しょしき【諸式】 しょच्चゅう【初中終】 しょっぱな【初端】
しょんべんたんご【小便担桶】 しよる しらん【知らぬ】 しりがえ【尻替え】
しりべた【尻臀】 しんしょう【身上】 すかくう すかん【好かぬ】
すくばる【竦張る】 すけべ【助平】 すこたん すだる【退る】 すぼす【燻す】
すぼむ【窄む】 すぼる【燻る】 すまん【済まぬ】 ずるける【狡ける】
すれっと すんなり せいた【背板】 せかせか せし【施主】 せせくる【弄る】
せせこましい せっかち せつき【節季】 せっちん【雪隠】 せび【蟬】
せびらかす せんか せんぐり【先繰り】 せんならん そいから そいだけ
ぞうさ【造作】 そうじゃった ぞうず【雑水】 そうすつと そうど【騒動】
そうに【多に】 そうよ【総容】 そうわいかん そがいに そこそこ【其処其処】
そそくる そめく【騒ぐ】 そうろそうろ そろうた【揃った】 そろっと そんなり
たいげ【大概】 たきもん【炊き物】 たぐる【手繰る】 たけんま【竹馬】

だご【団子】 たしょ【他所】 たったの たとむ【畳む】 たのき【狸】
だら【陀羅】 だらけ だんどり【段取り】 たんぬる【訪ねる】 ちごうた【違った】
ちこうなる【近くなる】 ちぢこまる ちぢくりあう【乳繰り合う】 ちびっと
ちびる ちゃら ちょいちょい ちょちよくる ちょっかい ちょびっと
ちょぼちょぼ ちょんぎる【>切る】 ちんまり つうじ【通詞】 つかる【浸る】
つきしょう【畜生】 つくぼう【蹲う】 つけもん【漬物】 つっぱりかう
つづれ【綴れ】 つばくらめ【燕】 つぶる【^{つむ}瞑る】 つやす【漬す】
つれのうて【連れ立つ】 てーとる てかけ【^{めかけ}妾】 でけた【出来た】
でけん【出来ぬ】 てこずる【梃子摺る】 でしゃばる でっち【丁稚】
てっぺん【天辺】 てておや【父親】 てのごい【手拭い】 でぼちん
てまがえ【手間替え】 てまめ【手忠実】 でゃーこん【大根】 てゃーた【炊いた】
でようた【出会った】 でんぐりがえす てんこもり てんで でんでんむし どうせ
とうなす【唐茄子】 どうなりこうなり とうにん【頭人】 どうやら
どかす【退かす】 どく【退く】 とくしん【得心】 どけ【退け】 とことん
どで一【土台】 どづく【届く】 とっとく どののつまり とびあがり【跳び上がり】
とぼくる【惚ける】 とぼす【点す】 どやす とらまえる【捕らえる】
とりあげば一さん とりこむ【取り込む】 とろい どわすれ どんざ とんちんかん
なきべす なぎゃーた【流した】 なごうなる【長くなる】 なすび【茄子】
なっとらん なでくる【撫でる】 なまくら【鈍ら】 なんなっと なんやかんや
にえくりかえる にくたらし にしめ【煮染め】 にじる【躡る】 にっちもさっちも
にようとる【似合う】 ぬかす【吐す】 ぬくもる ぬけさく ぬけぬけ
ぬるまゆ【ぬるま湯】 ねがけ【寝掛け】 ねこかぶる ねそべる【寝転ぶ】
ねどこ【寝床】 ねとぼける【寝惚ける】 ねぶる【舐める】 ねぶる【睡る】
ねらむ【睨む】 ねんがら ねんしゃ【念者】 ねんねこ のうなる【無くなる】
のかす【退かす】 のがす【逃がす】 のけ【退け】 のごう【拭う】 のし【主】
のっぼ ののこ【布子】 のんべー【飲平衛】 のろま【野呂間】
はいつくばる【這い蹲う】 はえとる【生えてる】 はしたがね【端金】 はったり
ばっちょがさ はつる【削る】 はなから【端から】 はなづら【鼻面】 はらくだす
はるる【晴れる】 ばんげ【晩餉】 はんたい【飯台】 ひこずる【引き摺る】
ひだるい ひっくりかやる ひっこむ【引き込む】 ひったくる【引手繰る】
ひなた【日向】 ひねくる【捻くる】 ひぼ【紐】 ひゃーて ひやかす【冷やかす】
ひやがる【干上がる】 ひより【日和】 ひるあがり【昼上がり】 ひんそ【品祖】
ひんね【昼寝】 ぶあいそ【無愛想】 ぶげんしゃ【分限者】 ぶさいく【不細工】
ぶちょうほう【不調法】 ふつつる【捨てる】 ぶりかえす へぐ【剥ぐ】
へしおる【押し折る】 へずる【減らす】 へたばる へんど【辺土】
ほうける【惚ける】 ほけ【蒸気】 ほこる ほぎくな ほしか ほぞ【臍】 ほとゆる
ぼちぼち ほとたらかす ほっぺた【頬】 ほとびる【潤ぶ】 ほめく【炎く】
ぼやく ぼろくそ【襤褸糞】 ぼんのくぼ【盆の窪】 まいげ【眉毛】
まかする【任す】 まくる【負ける】 まざる【混じる】 まぜくる【混ぜる】
またくら【股鞍】 まっくろけ まっさら【真新】 まっと まどう【償う】

まとも みてくれ みなくち【水口】 みなはい みゃーて【巻いて】
みゃーる【参る】 むこうずね【向こう臍】 むなぐら【胸倉】 めんたま【眼球】
もうちよい もうり【守】 もってこい ものいり【物要り】 もやい【舳い】
もらわした やいと【灸】 やうつり【家移り】 やかましもん やせぎす やだもん
やっこさ やっぱし【矢張り】 やや ややこしか やりばなし【遣り放し】
やんちゃもん ゆうた ゆうとんなった ゆるり【囲炉裏】 よあかし【夜明かし】
よいのくち【宵の口】 ようけ【余計】 よこいう よこざ【横座】 よこずち【横槌】
よこっぺら よさり【夜さり】 よそいき よだれくる【涎繰る】 よどうし【夜通し】
よなべ【夜なべ】 よんべ【昨晚】 りんき【愠気】 わからん わやく
わらじざけ【草鞋酒】 わりゃー われー

「日葡辞書」に見られる「天草方言」

あえる【和える】 あゆる【落ゆる】 あおのく【仰のく】 あかり【灯り】
あがる【上がる】 あけひろげる【開け広げる】 あしつぎ【足継ぎ】
あそびがてら あたじゃ あなまたぐされ【孔股腐れ】 あほ【阿保】
あわてる【慌てる】 あんばい【塩梅】 いお【魚】 いかめしか【厳めしい】
いぐる【挟る】 いっとき【一時】 いねこぎ【稲漕ぎ】 いひゆうもん
いやしい【卑しい】 うーばんげな【大番外】 うくる【受ける】
うちわる【打ち割る】 うっさめる【醒める】 うったつ うっぱがす【穿つ】
うでまくり【腕捲り】 うめあわする【埋め合わす】 うゆる【植ゆ】
うろたゆる うわあぎ【上顎】 えぐい えづい える えんかうち【縁家内】
おうようか【大様】 おうどか【横道】 おうちやく【横着】 おさ【長】
おずむ おつけ【大御おつけ】 おっつけ【追っ付け】 おっとる【押っ取る】
おととい【一昨日】 おめく【喚く】 かいー【痒い】 かかゆる【抱える】
かかる【掛かる】 かけあう【掛け合う】 かげん【加減】 かこつくる【託く】
かさ【瘡】 かさっぱち かすくる【掠る】 かする【掠る】 がた【湯】
かたぐ【担ぐ】 かたげる【担ぐ】 かつかつ かつがつ【且且】 かつれる【飢える】
がてら かなゆる【叶える】 がぶがぶ かまげ【吠】 かます【吠】 かまち【榧】
かやす【返す】 からげる【絡ぐ】 かるう【負う】 かるか【軽い】
かわっきる【乾き切る】 かわべり【川辺】 かわらけ【土器】
きこんのある【気根】 きしょく【気色】 きたなし【汚い】 きつい
きばる【気張る】 きぶくれる【着膨れ】 きもいり【肝煎り】 きやす【消す】
きゆる【消える】 ぎょうらしい【仰らしい】 きりばん【切り盤】
きれもん【切れ物】 くさるる【腐る】 くだけ【砕け】 くる くだす【下す】
くたぶるる【草臥れる】 くだらん くちなわ【朽ち縄】 くだ【竈突】
くどか【諄い】 くどらしか【諄い】 かねる【曲る】 くびる【括る】
くぼむ【窪む】 くめん【工面】 くやす【壊す】 くゆる【壊れる】
くらいつく【食らい付く】 くらまかす【眩ます】 ぐりいし【栗石】
くるぶし【踝】 ぐわらり けしかくる【喉ける】 けたくそ【卦体糞】
げな けむたい【煙たい】 こがるる【焦がれる】 こころもとのう【心許なし】

こしらゆる【拵える】 こずむ【小積む】 こそばいい【搦ゆし】
ことつくる【託ける】 ことつけ【言伝】 こぼるる【零れる】
こまごついう【細事言う】 こらえん【堪えぬ】 こらゆる【堪える】
さかしか【盛り】 さかっとる【盛っている】 さかる【盛る】 さする【摩る】
さっさせろ さばくる【捌ける】 さばける【捌ける】 しいら【糍^{しいな}】
しおはいか【塩鹹ゆし】 しかーと【確と】 しがむる【輦める】 しける【時化する】
しこる しまったかぶり しっぺがえし【竹篋返し】 しどろもどろ しばたたく【瞬く】
しびり しまう【仕舞う】 しゃー【菜】 しょうね【性根】 しらあえ【白和え】
しわがるる じん【仁】 じんべん【神変】 すがりつく すくる【透ける】
すくるる【竦む】 すげかゆる すさわら【寸莎藁】 すすくる【煤ける】
すびく すむ せがむ せし【施主】 せせる【弄る】 せわなし【世話無し】
ぞうよ【雑用】 そこなう【損なう】 そぎす【損ず】 そそっかし
そびく【しょ引く】 そろっと ぞろびく たくれる たでる だるか【怠い】
だれる【懈い】 たわけもん【戯け者】 たngo【担桶】 たんねる【訪ねる】
ちぢむる【縮める】 ちゅうのう【手斧】 ちんちく【珍竹】 つかまえる【捕まえる】
つまえる【摘える】 つましか つるんどる【連む】 でかかる【出掛ける】
でかした でくる【出来る】 できる【出来る】 てしお【手塩】 でたち【出発ち】
てのはら【掌】 とうしで【通しで】 とがる【尖る】 ときにが とぎる【削る】
どじ とぜんなか【徒然ない】 どんこんならん なう【縋う】 なおる【治る】
なする なまぬるか【生温い】 なまもん【生物】 なゆる【萎える】
なんぎする【難儀】 なんさま【何様】 なんのかんの【何や彼や】
にがごうり【苦瓜】 にゆる【煮える】 にらみつくる【睨み付ける】
ぬくむる【温める】 ぬすど【盗人】 ぬっか【温い】 ぬるる【濡れる】
ねおぞみ ねずむ ねぶる【眠る】 ねまる はいよ【拝領】 はかんいく【捗る】
はぐる【剥げる】 はげみず【半夏水】 はしり はみ【食み】 はりあう【張り合う】
はわく【掃く】 はわきだめ【掃き貯め】 はんたい【飯台】 ひがら
ひきさく【引き裂く】 ひきたくる ひきちぎる【引き契る】 ひだるい
ひっかかる【引掛かる】 ひっきる【引き切る】 ひっこめる【引き込める】
ひっちぎる【引千切る】 ひつつかまえる【捕まえる】 ひつつく【引っ付く】
ひっばぐる【引き剥げる】 ひでる ひとつぶせ ひとつもじ【一文字】
ひのかさ【日の量】 ひやがる【干上がる】 ひゆる【冷える】 ひょうげもん
ひょうろう【兵糧】 ひらくち ふいきん【布巾】 ふうべた【頬桁】
ぶえん【無塩】 ふくる【老ける】 ふくるる【膨れる】 ぶげんしゃ【分限者】
ぶさいく【不細工】 ふせする ぶち【淵】 ふとうなる【太くなる】
ふぬけ【腑抜け】 ふのわるい【符が悪い】 ふまゆる【踏まえる】 ふんぱたがる
へぎ【折ぎ】 へぐ【折ぐ】 へしおる【押し折る】 ほうける【惚ける】
ほうらつ【放埒】 ほがす【穿つ】 ほけ【蒸気】 ほこる【誇る】 ほこるる【綻ぶ】
ほそびき ほたぎ【櫓木】 ほとく【解く】 ほむる【褒める】 ほめく【火めく】
まーちっと まいげ【眉毛】 まいだれ【前垂れ】 まくりあぐる【捲り上げる】
まくる【負ける】 まずる【混ぜる】 まちっと まちながい【待ち長い】

まっと まばゆい【目映い】 まめな【忠実な】 まめる【廻る】 みたて【見立て】
みっとむない【見たくもない】 みゆる【見える】 むげな【無碍】 むしろ【莖】
めご【目籠】 めしつぎ【飯次】 めんめん^に【面々に】 もうちよい
もつる もつるる【縛れる】 ゆるか【緩い】 ゆるりと ようやっと ようよ
よくる【避ける】 よごるる【汚れる】 よさり【夜さり】 よっぽど【余程】
よどる【夜取る】 よなべ【夜業】 よま わずろうとる【患う】 わや

外来語

アカ【argha】梵語 闍伽^{あか} 仏前に供える水
アトリエ【atelier】フランス語 アトリエ 画室
アツソウ【ach so】ドイツ語 あっそう
アレルギー【allergie】ドイツ語 過敏症体質
アンネ【annei】タミール語 姉
インキ【inkt】オランダ語 インク 印字用油性液体
オテンバ【oh ten boar】オランダ語 お転婆^{てんば}
オブラート【oblaat】ドイツ語 オブラート
オランダ【holland】オランダ語 燐寸^{まっち}
オルゴール【orgel】オランダ語 自鳴琴 オルゴール
オンブ【ombro】ポルトガル語 おんぶ 負ぶう
ガーゼ【gaze】ドイツ語 ガーゼ
カステラ【castella】ポルトガル語 スポンジ菓子
カップ【capa】ポルトガル語 雨具
カプセル【kapsel】ドイツ語 カプセル
ガラス【glas】オランダ語 硝子
カルタ【carta】ポルトガル語 絵札（遊具）カード
カルテ【karte】ドイツ語 カルテ 診療記録
カルメラ【caramelo】ポルトガル語 砂糖菓子 キャラメル
カボチャ【cam bodia】カンボジア 南瓜（瓢箪型）唐茄子 Toonas
カンテラ【kandelaar】オランダ語 石油ランプ
カンフル【kamfer】オランダ語 カンフル注射 強心剤
キセル【khsier】カンボジア 煙管 喫煙用具
キビショ【急焼】中国福建音 急須 茶器^{ちやき}
クレヨン【crayon】フランス語 クレヨン 棒形絵の具
ゲートル【guetres】フランス語 ゲートル 脚半^{きやはん}
ケット【blanket】英語 毛布 ケット
コーヒー【coffee】オランダ語 珈琲
ゴーヘイ【go ahead】海洋語 前進 行け
ゴスタン【go a stern】海洋語 後進 ブレーキ
コック【kok】オランダ語 西洋料理人
コップ【kop】オランダ語 コップ

ゴム【gom】オランダ語 護^こ謨^も
コルク【kurk】オランダ語 キルク
コレラ【cholera】オランダ語 伝染病
コンパス【kompas】オランダ語 羅針盤
コンペート【confeito】ポルトガル語 砂糖菓子
サーベル【sabel】オランダ語 サーベル
サテン【satijn】オランダ語 縐^{しゆす}子
サラサ【saraca】ポルトガル語 更紗
サンパン【^{さんぱん}舢板】中国語 舢^{はしげ} 連絡船
シオタラン【só taran】ハンガリー語 塩分が足りない
シック【chic】フランス語 洒落^{しやれ}ていて上品
シッポク【卓袱】中国^式食卓 卓袱料理
ジバン ジュバン【gibão】ポルトガル語 襦袢
シャッポ【chapeau】フランス語 帽子^{ぼうし}
シャボン シャボン【sabão】ポルトガル語 石鹼
シャンス【想思】の唐音 恋人 情人^{じやうにん}
ジョウロ【jairo】ポルトガル語 如雨露^{じやうろ}
ジョン【jhon】オランダ語 坊や 少年 男児の呼称 天草特有
シロップ【siroop】オランダ語 果汁飲料
スコップ【schop】オランダ語 スコップ
ズック【doek】オランダ語 幌製の靴
ズボン【jupon】フランス語 ズボン
セセル【xexeru】ポルトガル語 弄^{いじ}る 触れる つつく ほじる
ソーダ【soda】オランダ語 炭酸ナトリウム
ソップ【soup】オランダ語 スープ 出汁^{だし}
タバコ【tabaco】ポルトガル語 煙草^{たばこ}
チフス【typhus】ドイツ語 チフス 伝染病
チャボ【champa】仏領インドシナ 矮鷄^{ちやぼ}
チャランポラン ペルシャ語 いい加減
チャルメラ【charamela】ポルトガル語 唐人笛
チョッキ【jaque】ポルトガル語 ベスト
デッサン【dessin】フランス語 デッサン 下絵
テンプラ【temporas】ポルトガル語 天麩羅^{てんぶら}
トラホーム【trachom】ドイツ語 トラコーマ 結膜炎
ドンゴロス【dungarees】インド語 麻袋 麻製の粗布
ナバ【naba】《ポルトガル語》 茸^{たけ・きのこ}
ナンキン【南瓜】 唐茄子 カボチャ
ネル【flannel】英語 毛織物
バッテリー【bateria】ポルトガル語 発動機舟 舟形押し船
パン【pão】ポルトガル語 食パン

バンコ【banco】《ポ》【bank】《オ》《ス》《イ》縁台 長椅子
夕涼み用腰掛け ベンチ bench
ピアノ【piano】イタリア語 ピアノ
ビードロ【vidro】ポルトガル語 硝子
ビール【bier】オランダ語 麦酒
ビールス【virus】ドイツ語 ウイルス
プータロウ【無頭路】台湾語 無就労者 遊び太郎
ブランコ【balanco】ポルトガル語 鞦韆^{ぶらんこ}
ベンガラ【bengala】オランダ語 紅殻 朱色顔料
ホース【hoos】オランダ語 水等を送る管
ボウブラ【abobora】ポルトガル語 ウリ科 ボウブラ（扁平型）
ハウメン ペルシャ語 方面
ボーロ【bolo】ポルトガル語 マルボーロ
ホガス【hogasu】ポルトガル語 穿つ^{うが} 孔をあける^{あな} 穴を掘る
ポケット【pocket】英語 ポケット
ボタン【botão】ポルトガル語 鈕^{ぼたん}
ポンシン【poncho】スペイン語 袖無しの綿入れ上着
ポンズ【pons】オランダ語 ポン酢
ポンプ【pomp】オランダ語 ポンプ
マッチ【match】オランダ語 燐寸^{まっち}
マドロス【matroos】オランダ語 船員
マント【manteau】フランス語 マント
ミーラ【mirra】ポルトガル語 ミイラ
メス【mes】オランダ語 手術用小刀
メダイ【mdal】ポルトガル語 メダル 記章
メリヤス【medias】スペイン語 伸縮性織物
メンツ【面子】中国語 面目 体面
モートル【motor】オランダ語 モーター 電動機 回転している
ラシャ【raxa】ポルトガル語 厚地の毛織物
ラッパ オランダ語 喇叭^{らっぱ}
ランタン【lantern】英語 手提げランプ
ランデブー【rendez vous】フランス語 逢引 デート
ランドセル【ransel】オランダ語 ランドセル^{かばん} 鞆
ランプ ランポ【lamp】英語 洋灯 ランプ
リュウマチ【rheumatisch】オランダ語 リウマチ
リュックサック【rucksack】ドイツ語 背囊^{はいのう}
レッコー【let go】海洋語 投錨^{とうびよう}
南蛮（ポルトガル・スペイン）・南京（中国・東南アジア）からの渡来品
なんきん【南京】 南瓜 カボチャ 唐茄子
なんきんじょう【南京錠】 錠前

なんきんぶくろ【南京袋】 麻袋 唐米袋
なんきんまめ【南京豆】 落花生 異人豆 ピーナツ
なんきんむし【南京虫】 トコジラミ
なんばんがき【南蛮柿】 イチジク 唐柿 南蛮タブ
なんばんがし【南蛮菓子】 コンペイトウ・ボウロ・カステラ
なんばんきび【南蛮黍】 モロコシ 唐キビ
なんばんずな【南蛮砂】 硼砂
ナンバンタブ【南蛮タブ】 イチジク 唐柿
なんばんづけ【南蛮漬】 料理
なんばんてつ【南蛮鉄】 黒金 刃物の地金

唐（中国）からの渡来品

からいも とういも【唐芋】 甘藷
からむすび【唐結】 直結び 本結び
とううす とうす【唐臼】 農具 脱穀
とうが とうがん【唐瓜】 冬瓜
とうが とうぐわ【唐鋤】 農具
とうがき【唐柿】 イチジク 南蛮柿
とうがらし【唐辛子】 香辛料
とうきび【唐黍】 黍
とうじんまめ【唐人豆】 落花生 異人豆 ピーナツ
とうなす【唐茄子】 カボチャ
とうはた【唐旗】 凧
とうまいぶくろ【唐米袋】 農具 米袋 麻袋
とうみ【唐箕】 農具
とんまめ【唐豆】 空豆

天草方言の文法

〔い〕段の語尾変化

いいやえん いゑやえん→言いは得ない（言えない） ききやせん→利きはしない
めしゃくわん→めしは食べない ぐちやいわん→ぐちは言わない
おにやおらん→おには居ない ゆうひゃきれか→ゆうひは綺麗だ
みみやきこえん→みみは聞こえない くりゃんまか→くりは旨い

接辞（接尾語）・助詞・助動詞

※接辞（接尾語）：語基の後に添加されるもの。

※「が・から・ので・たら・ない・なら」を付けてみて、
意味が通れば助動詞、意味が通らなければ助詞

※助動詞

「う・させる・せる・そうだ・た・だ・たい・たがる・です・ない・ぬ(ん)・まい・ます・よう・ようだ・らしい・られ・られる・れる」

…あつて …つまり 「そりゃあつて 本当はあつて」
…い …しよう 「遊ばい 行こい 見ゆい 寝ゆい」
…い …してたまらない 「暗うい はつかしゅうい ねぶうい」
…いちり …するだけ 「来たいちり するいちり 見たいちり 良かいちり」
…いらん 「いつあいらん どぎやいらん ひまーいらん」
…えん …得ない …できない 「行きえん 来いえん しいえん」
…か …とするか 「行くか 戻るか 寝るか」
…か …しなさい 「来んか せんか 塞かんか」
…が …がー …してないよ 「来とらんが せんが」
…が …するはずだ 「来るが するが 良かが」
…かい …かな …かなん …かね …かん …ですか 「行くかい 良かかん」
…かいた …がいた …しますか …ですか …なのか

「行くかいた 居ろがいた」《大矢野》

…がす …がすと …です 「そがんでがす 良うがすと」
…がた …がつ (価値) 「来たがた したがた 銭がた」
…がと …がつ (所有・量) 「俺がと 百円がと」
…かな …かなん …しますか 「行くかな 行かすかなん 見らんかなん」
…がな …するはずだよ 「行くがな するがな 良かろがな」
…かにや …しようかな 「行こうかにや 寝ゆうかにや 良かっどかにや」
…かね …しますか 「行くかね 行かすかね 見らんかね」
…がね …ですよ 「行くがね 来るがね 良かがね」
…かの …かのい …しないか 「行かんかの 来んかの 良かかのい」
…かぶる …しそうになる 冠る 被る 受ける

「打ちかぶる 死んかぶる 蓋かぶる 泥かぶる 泣きかぶる

…がや …しますよ 「行くがや 来いがや すいがや」《牛深》
…かる …から 「今かる こるかる 後かる」
…かん …しますか 「行かんかん 来んかん 見んかん 良かかん」
…かんも …かんもい …しますか 「来るかんも 良かかんもい」《志柿》
…ぎー …ぎり …かぎり …なら 「来るぎー するぎー 良かぎり」
…ぎや …げ …しに 「遊びぎや 買いぎや 見いぎや 飲みげ」
…きゃー …けー …なー …ねー …やー …ですか …しますか 「来んきゃー」
…ぎつと …ならば 「来んとぎつと せんとぎつと 見んとぎつと」
…きらん …できない 「行ききらん 来いきらん しいきらん」
…ぎりや …ならば 「来んとぎりや せんとぎりや 見んとぎりや」
…きる …ゆる …できる 「行ききる 来いゆる しいゆる」
…ぎんにや …ならば 「来んとぎんにや せんとぎんにや 見んとぎんにや」
…くさか …らしい 「あおくさか あほくさか 胡散くさか きじめくさか

しでりくさか 足りくさか なまくさか ひえなまくさか」
…くりゃ …ぐりゃ …ぐれー …位は 「こんくりゃ 休日ぐりゃ」
…け …けー …するか 「行くけー するけー 寝るけー」
…げ …げー …しに 「会いげ 売りげ 釣りげー」
…げす …です 「儂^{わし}でげす 家内でげす」
…けな …ので 「来るけな 見とるけな」《佐伊津》
…げな …らしい 「行くげな するげな よかげな」
…けん …けんか …けんで …だから …なので …故に
「みぞかけん よか女御だけん」
…けんや …ので 「言うけんや するけんや」《二江》
…こくる 「閉めこくる 黙りこくる 詰めこくる なわしこくる」
…ござす …ござっす …ございます 「良か正月でござす」
…ごたる …したい …のようだ 「行こうごたる 来たごたる しゅうごたる
飲もうごたる 花んごたる 馬鹿んごたる 屁のごたる 見たごたる」
…こつ …ことに限る 「喧嘩せんこつ 深酒せんこつ」
…ごつ …ごて …ごと …のように 「本物んごつ よかとんごて 山んごと」
…こて …ことには 「行かじゃこて せじゃこて 見らじゃこて」
…こなさん …できない 「喰いこなさん しこなさん 飲みこなさん」
…さー …ことよ …さよ 「寒さー ぬくさー 良さー」
…さー …ですよ その通り (相槌) 《下浦》
…さい …さね …ですよ 「行くとさい じゃっとさい 良かつさね」
…ざい …だよ (ぞんざいな言い方) 「良かざい 俺がすっざい」
…ささ …の間 「今ささ おるささ するささ ようかささ」
…さす …なさる 「奇麗にさす 早ようさす 安うさす ゆうさす」
…さすい …させる 「おいがさすい」《牛深》
…さする …させる 「運動さする 合格さする 勉強さする」
…さなー …だよ …ですよ 「行くとさなー 見たっさなー」
…さにゃ …さね …さん …へ 「後ろさにゃ 海さね 川さん」
…され …されば …である 「来っとされ 良かつされば」
…されず …されない 「言うやされず 来はされず しはされず」
…さん …しない 「来らっさん さっさん 見らっさん」
…じ …しないで 「行かじ 飲まじ 喰わじ」
…しえー …なのに …さに 「痛しえー 辛^かるしえー 苦っしえー」
…じえ …ですよ 「来んじえ 釣れんじえ」《佐伊津》
…しえーする …さにする 「痒いしえーする 欲っしえーする」《佐伊津・五和》
…しえな …だから …なので 「行くっしえな 釣れんしえな」《佐伊津》
…しえろ …しなさい 「早よしえろ 勉強しえろ のぼしえろ」
…しえんじやった …しなかった 「失敗しえんじやった 病気しえんじやった」
…しえんば …しなければ 「仕事しえんば 勉強しえんば」
…(し) こなさん …できない 「仕事しこなさん」

…したろうば …したならば 「宿題したろうば」
…したろうもん …したろだ …したでしょう 「反省したろうもん」
…してうゑ …してゑ …しておいて 「行たうゑ 来てゑ」《下浦》
…してんど …してんな …してみなさい 「貸してんど 競争してんな」
…しとく …しておく 「監督しとく 掃除しとく 負けとく」
…しとる …している 「朝寝しとる 研究しとる」
…(し) なっす …(し) なす …しなさる 「行きなっす おいでなす 来なす」
…じゃ …じゃー …しないと 「行かじゃ 飲まじゃ 喰わじゃー」
…しゃー …なのに …さに 「暗しゃー 幸らしゃー みぞしゃー」
…じゃー …なさいよ 「来うじゃー 自分でせえじゃー」
…じゃー …だよ …ですよ 「強かつじゃー 良かつじゃー」
…しゃーする …しゃする …そうにする 「嬉っしゃーする 良しゃする
痛しゃーする 痒いしゃーする ねぶしゃーする 欲しゃーする」
…じゃい …じゃいろ …だろうか 「居つとじゃい 来んとじゃいろ」
…じゃいせな …だから 「漁師じゃいせな」《佐伊津》
…じゃいと …だよ …ですよ 「言うごとじゃいと」《牛深》
…しゃか …でさえ 「俺しゃか 女しゃか 日曜しゃか」
…しゃが …すると 「行くとしゃが 見つとしゃが」《大矢野》
…じゃか …じゃかー …ではない 「俺じゃか 嘘じゃか 休みじゃか」
…じゃが …じゃぼって …ですが 「来んとじゃが 飲まんとじゃぼって」
…じゃかー …じゃかんね …ではないか 「来んとじゃかー 良かつじゃかー」
…じゃかいやー …ではないか 「休みじゃかいやー」
…じゃかつかい …じゃかつきやー …けー …ではないか 「休みじゃかつかい」
…しゃがな …しゃがにや …するならば 「行くとしゃがな
すつとしゃがにや」《大矢野》
…じゃがね …だよ …ですよ 「良か人じゃがね」《崎津》
…じゃがや …だよ …ですよ 「大漁じゃがや」《牛深》
…じゃかろう …ではないでしょう 「本当じゃかろう」
…じゃかろもん …ではないでしょう 「休みじゃかろもん」
…じゃかんな …じゃかんね …ではないか 「嘘じゃかんな」
…じゃきー …じゃつきー …だから 「負けん気じゃきー」
…じゃけん …じゃつで …だから 「朝じゃけん 本当じゃつで」
…じゃせん …じゃせんか …だから 「あつとじゃけん」
…じゃつか …じゃつきやー …じゃつけー …ではないか 「良かじゃつか」
…じゃつかい …かなー …かね …かの …かん …だね 「新品じゃつかい」
…じゃつた …であった 「良か潤りいじゃつた」
…じゃつて …じゃつで …でか …だから 「上等じゃつて 負けんとじゃつで」
…じゃつと …である …です 「本当じゃつと」
…じゃつど …でしょう 「確かじゃつど」
…じゃつとん …じゃつどん …だが 「日曜じゃつとん」

…じゃなー …ですね 「負けじゃなー」《倉岳》
…じゃもね …じゃもん …でしょう …だもの 「朝じゃもね 本当じゃもん」
…じゃもんき …だから 「景気じゃもんき」
…じゃもんさな …なのですよ 「金持ちじゃもんさな」《御所浦》
…じゃば …じゃばー …ですが 「行くとじゃば 良かつじゃばー」《新和》
…じゃばってん …だけど 「適齡期じゃばってん」
…じゃばんな …ですけどね 「養殖じゃばんな」《御所浦》
…じゃりやす …でございます 「良か潤いじゃりやす」
…じゃる …である …だ 「正解じゃる」
…じゃろう …じゃろうが …でしょう 「嘘じゃろう 舶来じゃろう」
…じゃろうかい …でしょうか 「雨じゃろうかい 優勝じゃろうかい」
…じゃろだ …じゃろもん …じゃろわい …であろう 「勝ちじゃろだ」
…じゃろもん 「すっとじゃろもん よかつじゃろもん」
…じゃわい …ですよ 「来いとじゃわい 漁師じゃわい」《牛深 大江》
…じゃん …だ 「行くとじゃん せんとじゃん 早かつじゃん 本当じゃん」
…じゃんな …なん …にや …ねー …だね 「本当じゃんな」
…じゃんのう …だね 「言わずごてじゃんのう」
…じゃんば …じゃんばー …なのだ 「時化じゃんばー」《牛深》
…しゅうだ …しましよう 「早よしゅうだ 勉強しゅうだ 優勝しゅうだ」
…しゅうに 「さしゅうに どうしゅうに 乗しゅうに」
…しゅうみゃーもん …しないだろう 「二度としゅうみゃーもん」
…じゅわ …じわ …ですよ …だよ 「よかつじゅわ」《嵐口》
…しよ …でしょうか 「誰しよ 何処しよ 何しよ」
…しよる …している 「仕事しよる 勉強しよる」
…じょん …なのだ 「すっとじょん よかつじょん」《荅北》
…すい …する 「あかねすい くらーすい 喧嘩すい」《牛深》
…すいがや …するのだよ 「養殖すいがや」《牛深》
…すいで …するから 「早起きすいで」《牛深》
…すいと …するのだ 「競争すいと」《牛深》
…すつちやろう …するのでしょうか 「結婚すつちやろう」
…すつとかい …きゃー …けー …な …ね …や …するのかわ 「旅行すつとかい」
…すつとしゃが …するならば 「合格すつとしゃが」《大矢野》
…すつとちゆた …するのだそうだ 「結婚すつとちゆた」
…する …す …せる 「泣かする 着する 寝する」
…するかい …するけー …しますか 「参加するかい」
…するじえ …するよ 「結婚するぜ」 《佐伊津》
…するっかい …するっけえ …するのかわ 「旅どもするっかい」《佐伊津》
…するっせな …するから 「漁するっせな」《佐伊津》
…するっぱい …するっぺー …するよ
「怪我するっぱい 優勝するっぺー」《佐伊津》

…するっぱな …しますよ …するよ 「競争するっぱな」《佐伊津》
…するもんき …するから …ので 喧嘩するもんき
…せ …さい …なさい 「下っせ 来なっせ」
…ぜー …だぞ …だよ 「大漁ぜー 良かぜー」《佐伊津》
…せーする …さうにする 「臭せーする 良せーする」《佐伊津・五和》
…せん …せんか …から …ので 「来るせん 見とくせんか」
…せんや …するから 「行くせんや 来るせんや するせんや」《二江》
…ぞ …ぞい …だぞ …だよ 「遅るっぞ 行くぞ 寝っぞい」
…そうな …そうなもん …らしい 「来そうな 良さそうなもん」
…ぞうな …ぞな …だぞ …だよ 「釣るっぞうな 良かっぞな」《新和》
…そうなもん …するはずだ 「来そうなもん 良さそうなもん」
…そうにある …らしい …のようだ 「良さそうにある」
…た …たー …だよ …ですよ 「これた すっとた 良かたー」
…だ …は 「俺だ 男だ わっだ」
…だ …だー …位は 「正月だ 日曜だー 夜だー」
…だ …だー …しようよ 「行こだ しゅうだー」
…たー …ったー …なのだ 「行くったー さるくったー 見るったー」《佐伊津》
…たい …たいね …ですよね 「来ったい 本当たい 良かたいね」
…たい …だい …ですか …なさいよ 「休むたい 行きたい 寝ゆうだい」
…たな …たなん …たね …たの …たん …ですよ 「すったな 良かたね」
…だもん …だん …ですもの 「行くとだもん 来んとだもん」
…たろう …ならば 「言うたろう 来たろう 見たろう 良かったろう」
…ち …ち …して 「行たち 唄うち 見ち」
…ちー …ちゅー …ですよ …だとよ 「来えーちー 良かちゅー」《本町》
…ちえーする …そうにする 「きっちえーする」《五和》
…ちさい …ちさね …だとよ 「来えーちさい 良かちさね」
…ちされば …と言ったら 「良かちされば」
…ちなー …ちねー …ちやー …だって 「来えちねー 良かちねー」
…ちやかー …ちやかんね …ではないか 「行くちやかー 読むちやかんね」
…ちやがや …だよ …ですよ 「来いちやがや すいちやがや」《牛深》
…ちやば …だけど 「行くちやば 来っちやば」《新和》
…ちやばって …だけど 「来っちやばって すっちやばって」
…ちやれば …であれば 「すっちやれば 遣っちやれば」
…ちやろもん …だろう 「来っちやろもん すっちやろもん」
…ちゃん …なのだ 「勉強すっちゃん せんちゃん」
…ちゃん …へ 「あっちゃん こっちゃん そっちゃん」
…ちゃんば …なのだ 「来いちちゃんば」《牛深》
…ちゅうか …ちゅうかい …だろうか 「良かっちゅうかい」
…ちゅうじゃあ …ちゅうじゃっか …だそうだよ 「仕舞ちゅうじゃあ」
…ちゅうぜ …そうだ 「行くっちゅうぜ」《佐伊津》

…ちゅうせん …ちゅうせんか …そうだか 「来るちゅうせんか」
…ちゅうた …ちゅうたい …たな …たね …だそうだ 「良かつちゅうたな」
…ちゅうたっちゃ …といっても 「良かちゅうたっちゃ」
…ちゅうて …ちゅうでか …だそうだから 「台風ちゅうて」
…ちゅうとん …だそうだが 「行くとちゅうとん 来っとちゅうとん」
…ちゅうな …ちゅうね …だそうですね 「来んとちゅうな 良かつちゅうね」
…ちゅうばえ …ちゅうびや …ちゅうべー …だとよ 「良かつちゅうばえ」
…ちゅうもね …ちゅうもん …だとよ 「来んとちゅうもね 良かつちゅうもん」
…ちゅた …ちゅわい …だとよ 「来んとちゅた 良かつちゅわい」
…っが …なのが 「太かつが 細かつが 白かつが 強かつが 早かつが」
…っさ …だよ …ですよ 「見っさ 良かつさ」
…って …から …しよう …のに 「来って すって」
…つらかす …放題に散らす 「言いつらかす えつつらかす 書つつらかす
喰いつらかす 走つつらかす ばつつらかす 踏んつつらかす 堀つつらかす
やつつらかす」
…て …だって 「有ったて 行かんて 来んて」
…で …から …しよう …のに 「良かで やろで」
…てー …なのに 「有ったてー 行かんてー 来んてー」
…でか …だから …ので 「行くでか 来るでか 良かでか」
…でち …でちや …でっちゃ …しよう と 「行こうでち 優勝しゅうでちや」
…てな …てや …ですって 「すってな 良かてや」
…てろ …てろん …だとか 「酒てろ 女てろ」
…てん …てんど …してごらん 「貸してん 来てん 見てんど」
…でん …でも 「遊ばでん 行かでん 今でん 来うでん そっでん」
…と …の物 「俺がと ここんと 人んと よそえんと」
…と …なのだ 「言うたと 嬉しかと すっと」
…とー …なのか 「来んとー すっとー どけ行くとー ほんとー」
…ど …だろう 「行かんど 来んど せんど」
…とか …とかい …とかん …ときゃ …とけ …とな
…とね …とや …なのか 「行くとか 来んときゃー せんとね 見んとや」
…どか …どかい …だろうか 「良かつどか 行くどかい」
…とが …なのが 「白かとが 太かとが 細かとが 若つかとが」
…どが …でしょう 「行かんどが 来んどが せんどが」
…とかな …とかなん …のか 「来んとかな 来んとかな すっとかん」
…どかにや …だろうか 「良かつどかにや」
…とかのい …とかのう …なのか 「行くとかのい 来んとかのう」
…とかん …のか 「来んとかん すっとかん」
…ときゃー …のか 「来んときゃー すっときゃー」
…とけー …のか 「来んとけー すっとけー 見んとけー」
…とこれ …のに 「行くとこれ 来っとこれ すっとこれ 良かとこれ」

…とた …とたー …のか 「来んとた すつとたー」
…どだ …だろう 「来んどだ すつどだ 良かつどだ」
…とてー …なのに 「行くとてー 好きとてー 春とてー」《鬼池》
…とな …となん …とね …のか 「来んとな すつとね」
…となろば …ならば 「来んとなろば すつとなろば」
…とに …のに 「来んとに すつとに 良かとに」
…どね …どわい …だろうね 「来んどね すつどね」
…とべー …ですよ …だよ 「行くとべー すつとべー」
…どま …ほどは …位は 「正月どま 日曜どま 夜どま」
…とめ …どめ …ともに 「いっそとめ 二人つとめ 夫婦とめ 両方とめ」
…とや …のか 「来んとや 良かとや」
…とよ …なのですよ 「行くとよ 来んとよ 見んとよ」
…とる …している 「来とる 聞いとる 見とる」
…とん …しないが 「来んとん せんとなん 見んとん」
…とん …なのが 「早かとん 安かとん 良かとん」
…とん …するぞ 「遅るつとん 風邪ひくとん 怪我すつとん」
…どん …でも 「歌どん 酒どん 散歩どん」
…な …ね …や …ですか 「行くとかな 来んね 良かや」
…なー …ですね 「雨なー 嫌なー 寒かなー」
…なか …ない 「愛想もこそもなか」
…なす …なはる …なさる 「おいでとなす 見となはる」
…なっせ …なさいませ 「おいでなっせ ご免なっせ」
…なつと …なりとも 「朝なつと 歌なつと 酒なつと」
…ならん …できない 「開けならん 言いならん しいならん」
…なるば …なるばっ …だけど …ならば 「すつとなるば 良かんなるばっ」
…なろうば …なろば …ならば 「行くとなろば 来んとなろば せんとなろば」
…なん …しなければならぬ 「行かなん せなん 見らなん」
…なんの …なんか 「お金なんの 女なんの 勉強なんの」
…に …はずがない 「どぎゃんなろうに 見ゆうに」
…にゃー …だよね 「本当にゃー じゃつとにゃー」
…にゃん …しなければならぬ 「来にゃん 行かにゃん」
…ね …ねえ …だよね 「本当ね じゃるねえ」
…の …か) 来んかの 「せんかの 見んかの 良かかの」
…のい …のう …ね …ですね 「じゃるのい 良かのう」
…ば …を 「仕事を 早起きを 優勝を」
…ば …ねばならぬ 「仕事せんば 早起きせんば 優勝せんば」
…ば …ばっ …だけど 「行くとなるば すつとなるばっ」
…ばい …ばな …ばよ …ばん …します 「行くばい 来んばな いやばよ」
…ばい …ばな …ですよ 「行くつばい 飲むつばな」《佐伊津》
…ばいた …しますよ 「するばいた 戻るばいた」《大矢野》

…ばし …でもか 「行たっばし すつとばし 見たっばし よかっばし」
…ばっかり …ばかり 「嘘ばっかり 良かばかり」
…ばって …ばってん …だけど 「行くとばって 来んとばってん いやばってん」
…びゃー …べー …ですよ 「行くとびゃー 来んとべー せんとべー」
…ペー …っペー …ですよ 「行くっペー するっペー 飲むっペー」《佐伊津》
…ぼー …するよ 「行くぼー 戻るぼー 良かぼー」
…ほどき …しながら 「あすびほどき」
…ほどき …稼ぎ 「銭ほどき」
…まじゃ …までは 「行くまじゃ 済むまじゃ 戻るまじゃ」
…まっせん …ません 「おいでまっせん 行きまっせん 済みまっせん」
…みさい …してみなさい 「行たてみさい 来てみさい」
…みてんど …みてんな …(して) みなさい 「見てんど 来てみんな」
…みゃー …しない(するまい) 「行くみゃー しゅうみゃー 見ゅうみゃー」
…みゆい …みゆうーだ …わい …(して) みよう 「来てみゆい 見てみゆうーだ」
…みんな …みんな …みんな …みんな …(…みませんか) 「来てみんな」
…もす …してさしあげる 「上げもす させもす 寝せもす」
…もね …だろう 「行くもね 安かもね よかもね」
…もん …でしょう 「言うたろもん 来っどもん 寒んかろうもん」
…もん …だもの 「要らんもん 良かもん」
…もんき …だから 「行くもんき 来るもんき 良かもんき」
…もんさな …なのですよ 「行くもんさな 来るもんさな」《御所浦》
…もんな …ものか 「行くもんな 来るもんな するもんな」
…もんばい …ものだ 「儲けもんばい」
…めー …しない(すまい) 「行くめー しゅうめー 見ゅうめー」
…やー …するか 「行くや 来るや するや」
…よー …だったかな 「今日は何曜日よー」
…よる …している 「行きよる 来よる しよる」
…らしか …らしい 「あほらしか ぐうらしか こやらしか はげらしか」
…らす …らる …なさる 「教えらす しとらす 呉れらす」
…らるる …るる …れる …できる 「行かるる 来らるる 呉るる」
…らん …しない 「要らん つまらん 取らん 見らん」
…りーろ …だろうか 「ありーろ 居らりーろ 来らるりーろ」
…れん …できない 「行かれん おられん 来られん 戻れん」
…ろ …だろうか 「行きいろ どうしゅうろ」
…ろが …ろがな …でしょうが 「来たろが 見たろがな」
…ろだ …ろもん …ろわい …だろう 「来たろだ したろもん 見たろわい」
…わい …わな …わね …しないよ 「行くわい 来るわな するわね」
…わしか 悪い 「あよわしか きそわしか よそわしか」
…ゑ …しておいて 「行たうゑ 来てゑ してゑ」《下浦》
…ん …しない 「来ん せん 見ん」

文末助詞の変化

- …い → か 暑か 美味か 遅か 黄んなか 暗か 綺麗か
…い → っか 明っか・赤っか 高っか 低っか
…い → りゃー 暗りゃー 貰りゃー
…い → れー 面白れー
…う → い 遊ぼうい 出ゆうい 見ゆい 戻ろい
…える → …ゆる 植ゆる 生ゆる 換ゆる 消ゆる
肥ゆる 冴ゆる 据ゆる 添ゆる 煮ゆる 映ゆる 燃ゆる
…か → …かか 静かか 短かか
…か → …きゃ …け 行くきゃ 戻るけ
…きる → …く …くる 飽く 出くる
…く → …う 遅すう 暗ろう 涼しゅう 早よう 短こう
…ける → …くる 開くる 受くる 掛くる 利くる こくる 避くる しくる
透くる 付くる 溶くる 泣くる 抜くる 焼くる
…げる → …ぐる 上ぐる 欠ぐる 焦ぐる 下ぐる 投ぐる 逃ぐる
…したか → …したっか …したっか 運転したっか
…したでしょう → …したろもん 優勝したろもん
…したなら → …したろうば 勉強したろうば
…したのか → …したいや …したっきゃ …したんな 勉強したいや
喧嘩したっきゃ 掃除したんな
…したので → …したけん …したで 朝寝したで
…していない → …しとらん 練習しとらん
…している → …しとる 禁煙しとる
…している → …どる 編んどる 噛んどる 積んどる 跳んどる
…しておく → …しとく 済ましとく 貯金しとく
…しない → …せん 買わせん 食わせん
…しない → …わん 会わん 言わん 歌わん 酔わん
…しよう → …しゆい 明日にしゆい
…しよう → …しゅう …しゅうだ 休憩しゅう
…するな → …すんな 遅刻すんな 見んな
…するなら → …しゅうば 就職しゅうば公務員
…するなら → …すんなろ 結婚すんなろ早よがよか
…せない → …せん 行かせん 貸せん 着せん させん 寝せん 見せん
…せる → …する 貸する 着する さする 似する 寝する 乗する
…だ → …たい 最高たい 優勝たい
…だ → …ばい 晴ればい 本当ばい
…だから → …だけん 優秀だけん
…だもの → …じゃもね …じゃん 雪じゃもね 休みじゃん
…だもの → …だもん 最高だもん

…だろう → …じゃろう 雨じゃろう 知らんじゃろう
 …である → …じゃある 美人じゃある 子どもじゃある
 …できる → …ゆる しいゆる 読みゆる
 …できる → …でくる 運転でくる 卒業でくる
 …でない → …じゃか …じゃなか 休みじゃか 楽じゃなか
 …てる → …つる 当つる 加つる 捨つる 立つる 果つる もつる
 …てる → …とる しとる 座とる 似とる 寝とる 見とる
 …てる → …よる 来よる しよる 寝よる 見よる
 …でる → …づる 撫づる さづる
 …なあ → …さー 早さー 太さー 良さー
 …ない → …なか 危なか 汚か みっともなか
 …なさい → …なっせ 遊びなっせ 飲みなっせ
 …なのか → …と 行くと 良かと
 …なのか → …とな …とね …とや 来とな …ね …や
 …なのだ → …じゃん 大漁じゃん 幸せじゃん
 …のだが → …じゃが …じゃっとな 正月じゃっとな
 …なのに → …じゃって 本当じゃって
 …なのに → …ちやが すっちやが
 …ならば → …なろうば 休みなろうば
 …なりと → …なっと 何なっと
 …ぬ → …ん 犬 来ん せん 見ん
 …ので → …けん …でか 行たけん 居ったでか
 …まい → …みゃー・…めー 来るみゃー するめー
 …める → …むる 温むる 傷むる 決むる 込むる 冷むる 閉むる 攻むる
 …もうす → …もす 呉れもす 頼んもす
 …もうせ → ませろ 買うてませろ してませろ
 …もの → …もん 着もん 余所もん
 …られる → …るる 売らるる 居らるる 怒らるる 着らるる 知らるる
 …りる → …るる 下るる 懲るる
 …るな → …んな 来んな すんな 見んな
 …れる → …るる 入るる 売るる 枯るる 切るる 呉るる さるる 知るる
 擦るる 逸るる 垂るる 腫るる 触るる 惚るる 漏るる
 …んで → …うで 編うで 噛うで 跳うで 飲うで 揉うで 読うで

接続助詞の変化

…ギャ… …ゲ… (…しに…) 遊びギャ行く 魚釣りゲ行く
 …ケン… (…から…・…ので…) 遅かケン寝ろ
 …サネ…・…サン… (…へ…) 山サネ行く 海サン行く
 …タッチャ… (…ても…) 来タッチャ居らん
 …トニ… (…のに…) 教えたトニ覚えとらん

…トハ…・…ター… (…のは…) 見たトハ最後 来たター始めて
 …ナ… (…は…) 大根ナかまんかな 人参ナ好かん 蜜柑ナ旨か
 …ニ… (…から…) 蜂ニ刺された 馬ニ蹴られた
 …ノ… (…が…) 子ノみぞか 面ノ紅っか 花ノ奇麗か
 …バ… (…を…) 川バ渡る 酒バ飲む 花バ飾る 飴バ舐むる
 …バッテン… (…けれども…) 綺麗かバッテン冷たか
 …ン… (…が…) 足ン早か 色ン白か 霜ン降る 日和ン(ノ)良か
 …ン… (…の…) 山ン神 海ン潮 男ン力 家ン主 宝ン島

接頭語

いち噛む いち喰う いっ零す いっ置く いんなゆる うち被る うち止むる
 うっ小積む うっ冷める うっ沈む うっ座る きっ魂消る きつとごゆる
 きゃー枯れた きゃー消えた きゃーなゆる くっちゃべる けー腐れ けー枯れた
 こっ剥ぐる さで転けた ちー寝た ちー遣った つっこくる つっ魂消る
 つつとぼくる つっぱたがる つん出くる つんぴしゃぐ つん曲がる つん漏る
 はち来る はち割るる ひちくどか ひちみたむなか ひっ固まる ひっ担ぐる
 ひっ構える ひっ飛ぶ ひつと出る ひん飲む ひん曲がる ぶっ潰す ぶっ通し
 ぶっ千切る ぶっ飛ばす ぶん殴る

天草方言の音便

あ → お (編んだ→おうだ)
 い → お (居る→おる) い → ん (抱く→んだく)
 う → お (茶受け→茶おけ)
 う → ん (馬→んま 梅干→んめぼし)
 え → いえ (英語→いえいご 鉛筆→いえんぺつ)
 おー → うー 大事(うーごつ) 大騒動(うーそうどう)
 多飯(うーめし) 多髪(うーがみ)
 お → を (魚→いを 塩→しを)
 か → きゃ (書いた 貸した→きゃーた)
 か → けー (書いた 貸した→けーた)
 か → くわ (菓子→くわし 火事→くわじ)
 か → こ (買った→こうた 噛んだ→こうだ)
 さ → しゃ (咲いた→しゃーた サザエ→シャージャ)
 さ → せ (咲いた→せーた)
 し → ひ (七・質→ひち)
 せ → しえ (先生→しえいしえい 背広→しえびろ)
 ぜ → じえ (税金→じえいきん 銭→じえん)
 そ → せ・しえ (急いで→いせーで・いしえーで)
 た → ちゃ (炊いた→ちゃーた)
 た → て (炊いた→てーた)

だ → じゃ (橙→じゃーじゃー)
 だ → じゃ (大根→じゃーこん・大工→じゃーく)
 と → て (研いだ→てーだ)
 な → に (泣いた→にゃーた)
 な → ね (泣いた→ねーた)
 な → の (糾なった→のうた)
 に → い (担う→いなう)
 ぬ → に (脱いだ→にーだ)
 ね → に (寝よう→にゅうだ)
 ね → ぬ (寝る→ぬる) 〈古語〉
 の → ぬ (飲んだ→ぬーだ) (能なし→ぬーなし)
 は → ひ (入る→ひゃーる) (灰・蠅→ひゃー)
 は → へ (入る→へーる) (灰・蠅→へー)
 ひ → ふ (ひつつく→ふつつく) (一人→ふちより)
 ふ → ひ (風呂敷→ひろしき 笛→ひえ 吹く→ひく)
 ほ → ふ (頬被り→ふーかぶり 惚ける→ふーける)
 ほ → へ (乾した→へーた)
 ま → み (巻いた 蒔いた→みゃーた)
 ま → め (巻いた 蒔いた→めーた)
 ま → も (舞った 回った→もうた)
 む → み (剥むいた→みーた)
 や → ゆ・よ (止んだ→ゆうだ ようだ)
 ゆ → い (湯がく→いがく 歪む→いがむ)
 ゆ → よ (歪む→よがむ)
 よ → ゆ (呼んだ→ゆうだ) (読んだ→ゆうだ)
 り・る・れ → い (無理→むい 来る→くい 俺→おい)
 る → ん (来るな→来んな すんな 取んな 見んな 遣んな)
 わ → ゑ (祝い→いゑ)
 わ → ゑゃ (祝い→いゑゃ 沸いた→ゑゃーた)

短音長呼

いー (胃) いーく (行く) いーし (石) うーし (牛) うーす (臼)
 おーる (居る) かー (蚊) かーき (柿) きー (木) くーし (串) くーち (口)
 けー (毛) こー (子) すーき (好き) すーし (鮭) だーる (誰) ちー (乳)
 ちー (血) つーき (月) てー (手) とー (戸) とーり (鳥) なー (名)
 にー (荷) はー (齒) はー (葉) はーし (箸) はーし (橋) はーる (春)
 ひー (火) ひー (日) ほーし (星) むーし (虫) めー (目) もーる (漏る)
 やー (矢) やーる (遣る) ゆー (湯) ゆーき (雪) よーる (夜)

長音短呼

こしゆ (胡椒) こちよ (校長) こり (氷) じさん (爺さん) しょい (醤油)
しょちゆ (焼酎) しょべん (小便) しょぼだん (消防団) じょり (草履)
しりつ (手術) ちゆがっこ (中学校) ばさん (婆さん) ビル (ビール)
ほちよ (包丁) もちよ (盲腸)

その他の転音

あい (在る) あいぶ (歩く) あいもん (和え物)
あきらむい・あきらむる (諦める) あきやー (赤い・明るい)
あくい・あくる (開ける) あぐる (上げる) あげー (顎に) あしゃー (浅い)
あすこ (あそこ) あすけ (彼処へ) あすぶ (遊ぶ) あせー (浅い)
あちー (熱い) あっちさん・あっちちゃん (あちらへ) あてー (後に)
あにやー・あねー (穴に) あぶにやー (危うく) あぶる (浴びる)
あみやー (甘い) ありやー (荒らい) あるう (洗う)
あゑえーだ・あゑやーだ (仰いだ) いい (入る) いくる (埋ける)
いげーた (動いた) いけとる (生きている) いしえー (医者に)
いしえーで(急いで) いちゃー・いてー (痛い) いっぴやー・いっぺー (一杯)
いなう (担う) いゑえー・いゑやー (祝い) いん (犬) うーか (多い)
うーかぜ (大風) うーた (追うた) うちやー (内は) うりー (潤い)
うりやー・うれー (裏に) おい・おり (俺) おい (居る) おうた (会った)
おうだ (編んだ) おおなく (仰向く) おけーた (起こした) おごうで (揮んで)
おしー・おすか・おせえー (遅い) おしゆる (教える) おそえる (教える)
おとろしか (恐ろしい) おにや (鬼は) おびー (重い) おぶーい (重くて)
おりや (俺は) おれーた (下ろした) かきやー (柿は) かくいーた (隠した)
かごうで (屈んで) かじえ (風・風邪) かせた・きやーた・けーた (貸した)
かぼうて (庇って) かみやー (紙は) かりいー・かりやー・かれー (辛い)
かずえる・かずゆる・かんずる・かんぬい (数える) かずむ (嗅ぐ)
かたぐる (担ぐ) かびーた (傾いた) からう・かるう (かろう)
かゑやーた (交わした) きこえん (聞こえない) きしゃにやー・きたにやー (汚い)
きやー・けー (貝) きやーた・けーた (書いた) きやーた・きえーた (消した)
きゅう (今日) きろうて (嫌って) きんなか (黄色い) くい (来る)
くい (杭) くい (食い) くじーた (崩した) くしゃー・くせー (臭い)
くでー (諄い) くでーた (口説いた) くぶる (焼べる) くりやー (暗い)
くりやー (栗は) くりやーた (暮らした) くりゅう (呉れる) くわじ (火事)
くわする (食わせる) くわぶん (過分) ぐわいこく (外国) くんのが (栗の毬)
けー (貝) けーた (貸した) けーた (書いた) けびー けぶか (煙たい)
けぶり (煙) こいもん (香り物) こうた (買った) こうだ (嘔んだ)
こうばしか (芳しい) ^{かんば} こきやーた (転かした) こぎやーた (焦がした・扱がした)
こけーた (転かした) こげーた (焦がした・扱がした) こしゃーだ (刮いだ)
こべーた (零した) これーた (殺した) これた (懲りた) こん (来ない)
こんた (此方) さぎやーた・さげーた (探した) さむしえ・さむしゃ (寒さに)

さびやーた・さべーた (捌いた) さみー (寒い) さみやーて (冷まして・醒まして)
さゑやーだ (騒いだ) しーか (酸っぱい) しーくわ (西瓜)
しーとる (好いている) しえびろ (背広) しぎやー・しげー (し甲斐)
じこう (利口) じじゃ (自在) じだ (地面) しちよる (してる)
しつとる (知ってる) しでー・しでやー (次第) しみやー・しめー (終い)
じゃーく (大工) じゃーこん (大根) じゃーじゃー (橙) じゃーた (出した)
しゃーた (咲いた・刺した・注した・指した)
じゃか (ではない) じゃみやーなる (邪魔になる) じゃる (ですよ)
しゃるる (洒落る) しゅう (しよう) じゅうし (漁師)
しゅうだ・しょうだ (染みた) しゅうだ (染みた) しょうけ (筥)
じょうり (草履) しよる (している) しれー (白い) しん (死ぬ)
ずーしー・ずしー (雑炊) すきやーて (透かして) ずぐし・ずぐっしょ (熟柿)
すしーで (濯いで) すずく (滴) すずむ (沈む) すたむる (しためる)
すだる (退る) すつる (捨てる) すらごつ (空言)
せーた (咲いた・刺した・注した・指した・急いだ・塞いだ)
ぜし・ぜしとん (是非) せつくわん (赤飯) せびやー (狭い) せん (しない)
ぜん (銭) ぞうたん (冗談) そびやー・そべー (側に) そゆる (添える)
だいか (誰か) たいぎや・たいげ (大概) たかぼうき (竹箒) たかやぶ (竹藪)
たかんぼちちよ (竹ンぼちちよう) たきやー (高い) たけー (高い)
たくう・たぐう・(蓄える) たこう (高く) たみな (タニシ) だみやーた (騙した)
たむる (貯める) だめーた (騙した) だらしか (怠い) だりが (誰が)
たりやー (盥) たわす (倒す) たゑーた・たゑやーた (倒した)
ちーた (着いた・付いた) ちーだ (注いだ・接いだ) ちきやー (近い)
ちぎやー (違い) ちじゅむ (縮む) ちったー (ちつとは) ちつと (ちよつと)
ちゃーた・てーた (炊いた) つきしょう・つくしょう (畜生)
つきやー・つけー (使い) つじーて (続いて) つびーた (潰した)
つぼうだ (窄んだ) てーた (解いた) てーだ (研いだ) でーた (出した)
でーく・でやーく (大工) とうだ (飛んだ) どけえ (何処へ) とでえた (届いた)
どん (殿) なごうなる (長くなる) にいだ (脱いだ) にぎる (睨む)
にやーた (泣いた) にゅう (寝よう) にゆる (煮える) ぬうだ (飲んだ)
ぬくい (温い) ぬびやーた (伸ばした) ぬべえーて (伸ばして) ぬる (寝る)
ぬるうなる (温くなる) のうた (縞った) のうだ (飲んだ)
のぎやーた・のげーた (逃がした) のでー (喉に) のびやーた (伸ばした)
のべーた (伸ばした) ばきやーしとる・ばけーしとる (馬鹿にしている)
はじーた (外した) はすうだ・はそうだ (挟んだ) はみやー・はめー (浜に)
はりくうだ (張り込んだ) はるうた (払った) ひでー (酷い)
ひやーった (入った) ひりやーた (開いた) ひれーた (開いた)
ひやーる・へーる (入る) ひるーた (拾った) ふてやー・ふてー (額)
ふなのい (船乗り) ふりー (古い) ふるーた (拾った) ふるーた (振るった)
ふれー (風呂に) へーた (干した) へーった (入った) へーる (入る)

へぎやーた (減した) へぐらし (日暮) へげーた (減した)
へりやーた (減らした) ほきやー・ほけー (他に) ほぎやーた (穿った)
ほでーた (解いた) みーた (剥いた) みーた (蒸した) みぎやーた (磨いた)
みしゅう (見せよう) みとる (見てる) みみやー・みめー (見舞い)
みみやー (耳は) みやーた (巻いた) みやーにち (毎日) みやーる (参る)
みゅうい (見よう) みんな (見ない) めーた (巻いた) めーにち (毎日)
めえーる (参る) めしやー (飯は) めやね (目脂) もうた (回った)
もうだ (揉んだ) もうった (漏れた) もでえた (戻した) もやーた (燃やした)
もようた (舐めた) もりやー (貰い) もれーもん (貰い物) もろうた (貰った)
もん (者・物) ゆうた (言った) ゆうた (酔うた) ゆたぶる (揺さぶる)
ようだ (読んだ・呼んだ・止んだ・病んだ) よがむ (歪む) よげーた (汚した)
よごうどる (歪んでいる) よさりゃ (夜は) よりくーだ (喜んだ)
ゑーた (置いた) ゑやーた (沸いた) んべ (郁) んま (馬)

省略音

「あ」の省略 ばるる (暴れる)
「か」の省略 きり (ん) なし (限りなし)
「く」の省略 すぶる すぼる (燻る)
「ひ」の省略 とおつ とおり とかたげ とつぶ とにぎり
「ふ」の省略 たあつ たあり たつぶ たにぎり

同音異義語

あっか (赤い・明るい)
かじえ (風・風邪)
かった (借りた・勝った・刈った)
きいた (聞いた・効いた・利いた)
きやーた (書いた・貸した・搔いた)
けーた (書いた・貸した・搔いた)
こうた (買った・飼った)
こぎやーた・こげーた (焦がした・扱がした)
さみやーた (冷ました・醒ました)
しーとる (好きだ・空いている・敷いている)
しゃーた・せーた (咲いた・指した・刺した・注した・翳^{かざ}した)
ちーた (着いた・付いた・突いた)
ちーだ (注いだ・接いだ)
ひやあ (蠅・灰) へえ (屁・蠅・灰)
みやーた (巻いた・蒔いた・撒いた)
めーた (巻いた・蒔いた・撒いた)
やーた (飽きた・開いた・空いた)
ゆうどる (止んでいる・病んでいる)

ようだ（読んだ・呼んだ・止んだ・病んだ）
よか（良い・要らない）
ゑーた・ゑゃーた（沸いた・湧いた・分いた）

天草方言の特徴

文語表現 （文語表現が顕著である。）

- …える → …ゆ（文語）＝ …ゆる（方言）
和える（共通語）→ 和ゆ（文語）＝ 和ゆる（方言）
植ゆる 生ゆる 変ゆる 消ゆる 崩ゆる 肥ゆる
冴ゆる 据ゆる 添ゆる 絶ゆる 萎ゆる 煮ゆる
映ゆる 冷ゆる 増ゆる 吠ゆる 見ゆる 燃ゆる
- …ける → …く（文語）＝ …くる（方言）
開ける（共通語）→ 開く（文語）→ 開くる（方言）
受くる 掛くる 利くる 避ける 透くる 炊くる
付くる 解くる 泣くる 怠くる 老くる 負くる
向くる 剥くる 儲くる 焼くる 避くる 分くる
- …げる（共通語）→ …ぐ（文語）＝ …ぐる（方言）
告げる（共通語）→ 告ぐ（文語）→ 告ぐる（方言）
揚ぐる 下ぐる 遂ぐる 投ぐる 逃ぐる 剥ぐる 曲ぐる
- …せる → …す（文語）＝ …する（方言）
褪せる（共通語）→ 褪す（文語）→ 褪する（方言）
失する 貸する 着する さする なする 似する
寝する 乗する 見する 瘦する 寄する
- …ちる → …つ（文語）＝ …つる …てる（方言）
落ちる（共通語）→ 落つ（文語）→ 落つ（て）る（方言）
- …てる → …つ（文語）＝ …つる（方言）
当てる（共通語）→ 当つ（文語）→ 当つる（方言）
加つる 捨つる 立つる 果つる もつる
- …れる → …る（文語）＝ …るる（方言）
溢れる（共通語）→ 溢る（文語）→ 溢るる（方言）
入るる 売るる 折るる 枯るる 切るる 暮るる
さるる 知るる 擦るる 反るる 垂るる 釣るる
照るる 取るる 馴るる 慣るる 濡るる 晴るる
触るる 蒸るる 漏るる 揺るる 縊るる 割るる

敬 語

あげもす【差し上げ申す】（差し上げる お供えする）
あげもす（招じ入れる）

いいなさる いいなす【言^ない為す】いわす いわつす（仰る）
いかす 上代敬語【行^なかっしやる】（お行きになる）
いかる 上代敬語【行^なきやる】
いきなす【行^なき為す】いきなさる いきなはる（お行きになる）
あがんなす（お召し上がりになる）
おあがんなつせ（お召し上がり下さい）
おいずる おいでなす おいでなはる【御居^なで為す】
おいでますか（いらっしやいますか ご在宅ですか）
おいでまっせ（いらっしやいませ）
おいでまっせんか（いらっしやいせんか）
おらす おらつす【御坐^{おわ}す】上代敬語（ご在宅である）
おらっさん【御坐^{おわ}さぬ】上代敬語（いらっしやらない）
おらる【お^なりやる】上代敬語（ご在宅である お居^なでになる）
おんなす【居^な為す・御坐^{おわ}す】上代敬語（お居^なでになる）
おんなさる おんなはる（お居^なでになる）
ききなす ききなさる ききはる【聞^なき為す】（お聞きになる）
きなさいまっせ（お出^なで下さい）
きなす【来^な為す】（来られる いらっしやる）
ござす ござりやす【御座^{ござ}あり】上代敬語（ございます）
ござる【御座^{ござ}る】上代敬語（ご在宅 いらっしやる おいでになる）
ごめんなつせ【ご免^ななすつて】（ご免下さい）
こらす【来^ならっしやる】上代敬語（おいでになる）
こらる【来^なりやる】上代敬語（おいでになる）
さす さつす【為^なす】（なさる）
させもす しもうす（して差^なし上げる）
しなす しなつす【し^な為す】（なさる）
しもうさす【所望^なす】お望みになる
しんぜもす（進呈）献上する 差^なし上げる
とめもす【泊^なめ申す】 ねせもす【寝^なせ申す】
はいよ【拝領^な】（下さい・頂戴）
はなさす はなしなす【話^な為す】（お話になる）
まする ませろ（差^なし上げる）「肩を叩いてまする」
みなす みらる【見^な為す・見^なりやる】（ご覧になる）
やりもす【遣^なり申す】差^なし上げる
やんなす【遣^なり為す】（お遣りになる）

丁寧語

あがんなつせ（お上がり下さい・お召し上がり下さい）
あげもす【上^なげ申す】
くたぶれじゃんなしたろう（お疲れ様でございました）

こうてませろ【買って差し上げ申せ】敬意を含んだ命令形
されやすどう（なさいますでしょう）
してまする【し申す】（して差し上げ申す）
たのんもす【お頼み申す】（お願いする 頼む）
とめもす【お泊め申す】（御泊まりいただく）
やりもす【遣り申す】（差し上げる）

その他

…せらす → …せらる（…なさる）
…まする ませる → …まうす（…もうす）
さ・なりきく さ・みしくる さ・あるく

にようご

女房(女官)ことば

いしいし（団子） うちまき（米） おかべ（豆腐） おだい（飯）
かもじ（添髪） こもじ（鯉） こん（肴） しゃもじ（杓子）
ひともじ（葱） ゆもじ（浴衣）

繰り返したことば

あっさりぐわっさり あっちこっち あっちゃこっちゃ
行き行き いそいそ いっけこっけ いっさいがっさい
いっでんかっでん いっときそっとき いっぴゃこっぴゃ
いつもかつも うんずりめんずり 来い来い 来と来
奇麗え奇麗え 喰い喰い くにやくにや 子子しか ごとごと
小も小も 為い為い しどろもどろ しゃーしゃー すーすー
すかすか すったりこすったり すっぺりこっぺり
ずれんくわれん そうそう そうろそうろ たーった
だっでんかっでん だれでんかれでん ちっとそっと
ちどろもどろ ちびちび ちゅうりこうり ちよいちよい
ちよくちよく ちよっとそっと ちりちり ちんぐりかんぐり
ちんだはんだ つぐんつぐん てしゃくわしゃ てれんぱれん
手ん手に でれんでれん どうでんこうでん どうなりこうなり
どうもこうも どうやらこうやら とうりたーり
どうろこうろ どがんもこがんも どぎゃんもこぎゃんも
どけもこけも どこでんかしこでん どこもかしこも
どっこいどっこい どっでんかっでん どっでんこっでん
どりもこりも なかなかなか なごなご なんじゃかんじゃ
なんちゅこっか なんでんかんでん なんのかんの
なんもかんも にやにや 早う早う 走り走り はちきはちき
ひちゃくわちゃ ひっかかりまっかかり ひっちゃこっち
ひっぱりこっぱり ひんごまんご 太う太う 降り降り

ふんだりけったり ぼちぼち ぼつとりぼつとり 見い見い
めめ 女女しか 女女女^{めめじよ} やすみやすみ やたりやかたりや
やっとかつと ゆっくりゆっくり ようらようら わあがわあが

あれ これ それ どれ

あがん こがん そがん どがん あぎゃん こぎゃん そぎゃん どぎゃん
あげん こげん そげん どげん
あすこ ここ そこ どこ あすけ こけ そけ どけ
あっち こっち そっち どっち あっちゃ こっちゃ そっちゃ どっちゃ
あっちゃん こっちゃん そっちゃん どっちゃん
あっでん こっでん そっでん どっでん
あり こり そり どり ありか こりか そりか どりか
ありば こりば そりば どりば ありも こりも そりも どりも
ありゃー こりゃー そりゃー どりゃー
あれん これん それん どれん
あん こん そんな どん あんつれ こんつれ そんなつれ どんつれ
あんで こんで そんで どんで
あんなん こんなん そんなん どんなん あんもん こんもん そんなもん どんもん
あんわれ こんわれ そんなわれ どんわれ

時節の移り変わり

夜明け 朝まじみ 朝ごっとき 朝がけ 明け方 明け六つ
明けだち 朝立ち 朝っぱち 朝っ腹 朝おれ ひっ時分
昼上がり 昼飯時 昼折れ ひんのみやあ 真っ昼間
ひんの日中 夕上がり 夕暮れ 日の暮れ 暮れ六つ 夕まじみ
日暮れさね 夕飯時 宵の口 晩餉さね 夜更り^{よさ} 開枕^{かいちん} 暗がり暗隅 沈の闇 月のん
様ん明り 星明り よんべさね 夜更け
日のいっちんち よのふて よんのよして

痛さも程がある

頭痛 (うす頭ン痛か 打ち割るる如たる がんがんする
ずつきずつきする)
腹痛 (腹ン塞く しくしくする じぐじぐする)
足痛 (足ン棒のごたる 足ン突っ張る 烏曲がりンする
こむらがりンする)
腰痛 (腰ン疼く^{うず})
歯痛 (歯ノすびく 歯ノきりきりする)
肩痛 (肩ンいぎる 肩ンつつくわんぐるごたる)
輝^{あかぎれ} (輝ノつつく ずきずきする)
火傷・日焼け (ひでる ひりひりする ぴりぴりする)

霜焼け（痛痒か つかさする）

色も色々

あおあおなる【青々】 青味が増す
あおがり【青刈り】 青田刈り 未熟な稲を刈り取る
あおくさか 古語【青臭し】 青草の匂い 生しい 未熟
あおざむる【青褪め】 顔色が無くなる 血色が無い
あおすったん 熟れていない果実 顔色の悪い人
あおた【青田】 実らない稲田
あおたるる【青垂れ】 顔色が青白い
あおてんじょう【青天井】 青空 晴天
あおな【青菜】 野菜 あおやしやー【青野菜】 葉野菜
あおなつた 青くなった ②肝を潰した
あおにしゃ【青二才】 未熟者 若造 若輩
あおばな【青洩】 青みがかつた洩
あおびゅうたん【青瓢箪】 顔色の青白い人
あおもん【青物】 野菜 葉野菜
あか 赤ちゃん
あかがみ【赤紙】 召集令状
あかしんによ【赤信女】 未亡人
あかのたにん【赤の他人】 何の関わりもない人
あかはじきやーた 古語【赤恥】 人前で恥をかいた
あかばちかやる 顔色が赤く火照る 赤面する
あかべー あかんべー 古語【あかすかべい】 拒否表現
せきはん せつくわん【赤飯】 おこわ
まっかなうそ【真赤な嘘】 全くの嘘
きんなかこえ【黄色い声】 かん高い声
くろっすー【黒煤病】 果実の伝染病
どすぐろか 毒々しく黒い 光沢が無く黒い
はらぐろか【腹黒い】 根性が悪い
しらーしらなる 夜が明ける
あだじろか【阿娜白い】 なまめかしい白さ
しらーつとして 白を切って 知らぬ振りして
しらかす 古語【白かす】 古語【白化け】
しらきる 知らぬ振りを通す 無関係を装う
しらじらしか【白々しい】 見え透いている 興ざめる
しらっちやくる 色あせて白くなる
しらた 樹木の表皮近くで白い部分
しらふ 素面 酔っていない

「…かぶる」という意味は？

- ①冠る（頭を物で覆う・上に載せる）
- ②被る（身に被害を受ける・水を浴びる・掛ける）
- ③蒙る（責任を負う・引き受ける・背負い込む）
- ④…しそうになる …してしまう

いっかぶる 水を被る [いっ]は接頭語

受けかぶる 引き受けても負担が多過ぎる

うちかぶる 頭を物で覆う 「布団パー」

かいかぶる 過大に評価する

しかぶる 失禁する 粗相する おもらし

死にかぶる しんかぶる 死にそうになる 死ぬほど辛い 死ぬほどきつい

出しかぶる 立て替え金を取り返せない

垂れかぶる 大小便を漏らしてしまう 失禁

蓋かぶる

泥かぶる 不利を承知で役目を負う

泣きかぶる なっかぶる 泣きそうになる

寝かぶる ねっかぶる 眠ぶるかぶる ねむるかぶる

眠気が差す・眠りそうになる・ 居眠りする

ねこかぶる 知らぬ振りをする おとなしい振りをする

罰かぶる 罰が当たる

ひっかぶる 頭を物で覆う・(水などを)被る [ひっ]は接頭語 「雨合羽バ…」

ふきかぶる ふっかぶる 沸騰して噴き零れる

降るかぶる (雨が)降りそうになる

振るかぶる 振るかざす

帽子かぶる 帽子を被る

まrikaぶる 失禁する 粗相する おもらし

みずかぶる 行水する

汚れかぶる ひどく汚れる 汚れてしまう

笑いかぶる わりーかぶる 薄笑いする

…なか なかなかづくし

愛想んなか 愛想がない 可愛げがない

愛想もこそもなか すっかり嫌になる

味気なか 古語【味気無し】 物足りない 張り合いがない

足踏み先もなか 踏み入る隙がない

味もせせらもなか 味もそっ気もなか 味気ない

宛行んなか 責任感がない 頼みにならない

危なか 危ない

有られむなか 古語【有られぬ】 不味い とんでもない

言うともなか 古語【言いとうも無し】 言いたくもない

痛とうも痒うもなか 全く痛くない
胡散^{うさん}なか 古語【胡散】 怪しい 疑わしい
遠慮会釈もなか 厚かましい
惜しげむなか 惜しみなく
思い掛けむなか 思い掛けない 意外にも
陰も形もなか 跡形がない
気散なか 古語【気散じ】 構いがない ②呑気
汚か【汚い】 不潔
きんのなか 限りがない 際限がない
術^{じゆつ}なか【術なし】 方法がない ②切ない 心苦しい
しょうことなか 古語【せうことなし】 仕方ない やむを得ず
性懲り^{しょうこり}もなか 少しも懲りないで
仕様模様なか どうしようもない
仕様んなか 仕方ない
忙^{せわ}しなか 忙しい 余裕がない
ずつなか【術なし】 方法がない ②切ない 心苦しい
素っ気なか【素気無い】 冷淡だ 薄情 つれない にべもない
徒然なか 古語【徒然なし】 退屈 ②寂しい ③心細い
とつけむなか【途轍もない】 滅相もない とんでもない
突拍子もなか とんでもない
途轍^{とてつ}もなか 途方もない 法外な 意外な
途方もなか 手段がない 方法がない
頓着^{とんじやく}んなか 無頓着^{な おざり} 等閑
とんでもなか 途方もない 考えられない 思い掛けない
情けなか 薄情 残念だ
情け容赦もなか 同情したり許したりしない 厳しい仕打ち
何もかんもなか 全く何もない
能のなか 才能がない 千恵がない
のさんのなか 運が悪い 良い目に遭わない
端^{はした}なか 中途半端 不作法
ひち見たむなか 古語【見とうもない】 みつともない
ひょんなか 古語【ひょんな】 妙な 以外な
風はなか【風采がない】 格好悪い 無様だ
変なか【変だ】 不思議だ
法外もなか 法外もない 並外れて
方角もなか 途方もない とんでもない
味噌も糞もなか 区別がない
見たむなか 古語【見とうも無し】 見たくもない
身も蓋もなか 露骨で情味も含蓄もない
妙なか【妙だ】 不思議だ 変だ おかしい

むぞう

無慙気んなか 可愛げがない

滅相もなか あり得ない とんでもない

やるしゃなか 気が揉める 切ない

遣る瀬無か 心が晴れない 切ない

ゆうなか【善くない】

油断すきも隙もなか 僅かな隙もない

欲も得もなか 損得を考えない 余裕がない

りゅうけむなか【料簡りょうけんない】 思慮がない ②みっともない 恥ずかしい

碌ろくでもなか 何の値打ちもない くだらない

碌ろくなこたなか 満足な物がない

訳やなか 簡単だ 造作ない

「落ちるよ 落ちるわよ ほりゃひっちゃけた」

いっちゃえる いっちゃゆい いっちゃゆる うっちゃいくる うっちゃいける

うっちゃえる うっちゃゆる おっこつる おつる おてる こくる こける

きゃーこくる きゃーこける さでこくる さでこける ちゃーくる

ちゃーける ちゃいくる ちゃいける ちやくる ちやくる ちやける

ちやける ちやゆる つこくる つこける つっこくる つっこける つっぱる

つわえる つわゆる ひっちゃいくい ひっちゃくる ひっちゃける

ひっちゃゆる

「美味しいですよ。食べませんか（食べて下さい）」

おいしゅうごぎすとぞ おあがんなっせ

おいしゅうごぎすばい 食べてくだっせ

おいしかいよ 食べれば

おいしかけん 食べて見なっせ

おいしかばな 食べち見んね

おいしかぞ 食べて見ろ

おいしかっさな 食べんな

おいしかっじゃとん 食べんきゃー（食べんけー）

おいしかっぞーな 食べなっせな

おいしかっばえ 食べてんど

おいしかっべー 食べんみろ

おいしかっぼー 食べんや

おいしかで 食べんね（ぷーてみる・ペー）

おいしかですよ 食べてみてー

おいしかとよ 食べん？

おいしかばいた 食べんかいた

おいしかよ 食べてん

んもうごぎすとぞ 喰うてくだっせ
んもうごぎすばな 喰うてみなっせ
んまか 喰え
んまかけん 喰いなっせ
んまかぜー くわんなー
んまかせな くわんけー
んまかせんや くわんや
んまかぞ 食うんみろ
んまかつぞ 喰うてみろ
んまかで なめろな
んまかつぱなー くてみんけー
んまかつペー かうっかい
んまかばいた くわんかいた
んまかばえ くてみさい
んまかばえ 喰うちみろ
んまかばな ぱんね
んまかベー くてろ
んまかぼー くわんかいた
んまかもね くわんかい
んまさもんまさ はよくえ
んみゃーぞ かうたい

珍語万語

あくわーんとしとる（口を大きく開けている）
あぐっちゃけ（口を大きく開けろ）
あしふみぎきんなか（踏み入る隙間がない）
あすーっさるく（遊んで回る）
あすっぎゃどんけーなー（遊びにでもおいでよ）
あすびぎゃくるけん（遊びに行きますから）
あちゃんなる あてんなる（邪魔になる）
あっちゃこっち（反対に あべこべに）
あぶにゃーうっちんとこじゃった（危うく死ぬところだった）
あぶらすむる（精油する） あゆっけ（歩いて来い）
あんつれんとんとんとつれんとん（あの種のもものが滅多に釣れないのだが）
いたちくうたい（行ってきますよ）
いたちくって（行ってきますから）
いどりがく（汚れの跡が付いている）
いっかかってかたづくる（総動員で片付ける）
いっかかる（降り掛かる）
いっちゃんこられんとん（全く来ないが）

いらりーろ いらりーろ (要るだろうか)
いれっくれりいろ いれりーろ (入れてくれるだろうか)
うしのうた (無くした 紛失した)
うんずりめんずり (次第に 徐々に その内に)
うんぶくるる (溺れる) えだんいたか (肢が痛い 肩が痛い)
えっとなこたなか (大したことはない)
おずーだ (目を覚ました)
おととととたー (奪っているのだよ)
おめーてみろ (大声で呼んでみろ)
かーんかんちーた (蚊が刺した)
かきくーけー (柿を食べますか)
かじえぐすんのかじえひーとる (薬の薬効がなくなっている)
かつくわんかん (柿を食べませんか)
かつとしゅう (次々に) がまじゃーてきぼる (精を出して働く)
きいっくって (聞いて来るから)
きくどもん (利くだろうね 利くと思うよ)
きたろうば (来たならば) きたろうもん (来たのでしょうか)
きばらすばいな きばんなすか きばんなっせ (勢が出ますね)
きゃーほりぎゃいかんきゃー けーほりげーいかんけー (貝掘りに行かないか)
きゃーしんみゃー (裏返しに)
くいーくいーさるくな (食べ歩くな)
くーっくー (食べてこよう)
ぐーらしか ぐらしか (愚かしい 可愛そうだ)
くっちやろかい くりーろ (来るだろうか)
くっだっど くだっどもん (下さるだろう)
こけけ ここさんけ (ここに来い)
ごちゃんいたか (五体が痛い 背中が痛い)
こんくらしゃー (このように暗いのに)
こんてんとんとんととれんとん (この種の物が殆ど捕れないのだが)
こんやだこんや (今夜にでも来ませんか)
さかさみやなす (逆さにする 天地逆にする)
ささっどとさい (刺さっているのだよ)
させんせんせん (させてくれないからしない)
さっささっさんせんじゃん (手早くなさらないからですよ)
さっしーろ さりーろ (なさるだろうか)
さりく さるく (歩き回る)
さるくったー (歩き回るのですよ)
さんくりかえる (転倒する 転げ回る)
しーとる (好きだ)
したもねーろ (した方がよいものだろうか)

じゃからじゃま じゃらじゃま (違うないよ)
しゅうーだ (しましろう することにしよう)
しゅうみゃーだ しゅうめーだ (しないことにしよう)
しゅうれ (吸え)
ジョンがごたっとじょん (幼い子どもみたいだよ 幼稚だよ)
しんのしまり (最終的に)
すーした (空気が抜け) すーする (空気が抜ける)
すーすーするせんせけ (隙間風が入るから戸を閉めろ)
ずーり (沿って 伝って)
ずーんする (体温が急に下がる)
すっちゃいろ (するのだろうか)
すっちゃかいや (するのではないだろうか)
すっどもん すっちゃろもん (するのでしょうか)
ずるずるづる (次々と出る)
するせん (しますから) すっちゃん (しるんだ)
するみゃーもん (しないでしようよ)
せーてせかん (急ぐが緊急ではない)
せせらせられん (触れさせる訳にいかない)
せっくわんくわんかん (赤飯を食べないか)
せにゃん せんぼんと (しなければならぬ)
せんちゃろもん せんどもん (しないでしよう)
せんもん (しないよ)
そびっこむ (引きづり込む)
ぞんぞろびく (だらしなく引きずる)
たたったー たたっととたー (崇っているのだ)
だんだんなー (有り難うね)
ちーっくれ (注いで下さい)
ちーっけ (同行しなさい 付いて来い)
ちちーちーとと (父に付き添っているのです)
ちーんちーとる (血が付いている)
ちゃんくわら (安物 不良品)
ちゅうりこうり (ちょっとやそつとでは)
ちょうじょう (重畳 ありがとう)
ちよつこらちよーつと (短兵急に 性急に)
ちんかジョンととんかジョン (小さな坊やと大きい方の坊や)
ちんかも (仲睦まじい関係)
つこきゃーた つこきゃーた (落としたり)
つっくわんげた (抜けた)
つったとんなな (呆然と立ったままの)
つっぱったっじゃがや (落ちたのだ)

つらなし (照れ屋 恥ずかしがり屋)
つんつらかす (摘み散らす)
つんつるてん (つるつるに禿げた様子)
つんなもだ (連れ立って行こう)
つんぶるう (振り解く)
てーげてーげでよかてー (大雑把でよいのに)
とうかとな とうかっかな とうかんな (遠いのですか)
とうつたあつ (一つ二つ)
とうりたーり (一人二人)
ととととー とととと (取っているのですか 取っています)
とととともととと (取っているとでも思っているのか)
ととこれかたまれ (一カ所に集まれ)
どぼくるる (先端が潰れる)
なかなかかな (案外と無いね)
なわのうた (縄を縛った)
なんかたなかかな (長いのは無いですか)
なんかなかかな (何か無いか)
なんぎゃとととたー (投げ遣っているのだ)
なんしゅうに (何をしようか 不要だ)
なんなんな なんなんかな (何々ですか)
ぬーだろにゅう (飲んだら寝よう 飲んで眠ろう)
ぬーどっど (酒を飲んだな)
ぬーんみゅうだ のーんみゅうだ (飲んでみよう)
ねぎる ねぎとる (睨み付けている)
のすこっじゃか (耐えられない 我慢できない)
はちくる (こちらから行く) はちけ (おいで)
はってく (果て行く 逝ってしまう 行く 死ぬ)
はってけ (もう行きなさい) はってこ (もう行こう)
ばななかな ばななな ばななばな (バナナですか)
ばんばらげ (視界の妨げがない)
ばんかな (食べませんか) びーなっせ (召し上がれ)
ひっちやかましか (うるさい 面倒だ)
ひっちやこっち (逆さに)
ひのいちんち ひのいっちんち (一日中)
びるのもだ びんのもだ (ビールを飲みましょう)
ぷーてみろ (食べてご覧) ペー (食べる)
ぽーかい (食べようか)
へきんいたか (肩^{けんべき}癖が痛い)
みーみーせろ (時々見張れ)
みーっぽとんな (何もしないで眺めているな)

みかんぱんのよか（見栄えがよい）
みがんのゆうなりやした（気候が穏やかになりましたね）
みゆうみゃーもん（見ないだろうよ）
むーらしか（蒸し暑い）
めしゃぱん ぱんなろふう（ご飯は食べないパンなら食べる）
めのもーた めんもーた（目眩がした）
もーたーんもーとる（モーターが回っている）
やももすもももものうち（山桃もスモモも桃のうち）
やーやー やーたやーはくいやーた（バリですか 焼いたバリは食べ飽きた）
ゆうっかする（言って聞かせる）
よかろうもん（いいでしょう）
よかろうで（いいだろうに）
よしーしていっちょる（よいことにして我慢している）
よったーり（四人） よととと（寄っているのです）
わーがわーがでわーがよかごていっちえろ（各自で好きなようにするがよい）
わせんむこどん（春雷 稲妻）

宮澤健治の「雨ニモマケズ」

〈原文〉

雨ニモマケズ 風ニモマケズ
雪ニモ夏ノ暑サニモマケヌ 丈夫ナカラダヲモチ
慾ハナク 決シテ^{いか}瞋ラズ イツモシヅカニワラッテキル
一日ニ玄米四合ト 味噌ト少シノ野菜ヲタベ
アラユルコトヲ ジブンヲカンジョウニ入レズニ
ヨクミキキシワカリ ソシテワスレズ
野原ノ松ノ林ノ陰ノ 小サナ萱ブキノ小屋ニキテ
東ニ病氣ノコドモアレバ 行ッテ看病シテヤリ
西ニツカレタ母アレバ 行ッテソノ稻ノ束ヲ負ヒ
南ニ死ニサウナ人アレバ 行ッテコハガラナクテモイ、トイヒ
北ニケンクウヤソショウガアレバ ツマラナイカラヤメロトイヒ
ヒドリノトキハナミダヲナガシ サムサノナツハオロオロアルキ
ミンナニデクノボートヨバレ ホメラレモセズ クニモサレズ
サウイフモノニ ワタシハナリタイ

天草方言で読む「雨にも負けず」 鶴田 功（訳詞）

雨にも負けん 風にも負けん
雪にでん 夏の暑さにっちゃ 負けん 丈夫んか体ばもち
慾はせえでん 決して^{はる}腹かかんで いつでん静かに^{わる}笑うとる

いちんち
一日に玄米四合と 味噌と ちいっとばっかんの野菜ば 食い
あらゆるこつば 自分ば勘定に入れでにや
ゆうっと見聞きし 分かり そして忘れでん
野原ん松ん林ん陰ん こまあか萱葺きん小屋におつて
東に 病気ん子供がおつたろうば 行たて 看病してやり
西に きゃ一草臥れた母がおれば 行たて そん稲ん束ば 負い
南に 死んかぶつた人のおれば 行たて
おと
怖ろっしやせんちやよかとい
北に喧嘩てろん 訴訟があれば つまらんけん すんなとい
日照りん時や 涙ば流し 肌寒か夏あ ゆつつらゆつつら歩び
みんなに木偶の坊ち 言われ 褒められもせえでん
苦にもされでん
そういう者に 私や なるごたる